

科目名	地域保育基礎講座	単位数	2	担当教員	染谷 哲夫 他
授業の内容	地域保育学科における3年間の学びを開始するにあたり、前期は様々な基礎事項について学び、地域保育学科の学生として必要な知識、技能、態度等を養成する。授業担当は学科の専任教員が専門分野の話を交えながら分担して行う。後期は基礎学力講座か公務員試験対策講座のいずれかを選択し学力の向上を図る。実情に応じて学外講師による講演や校外授業（地域・社会見学等）を予定している。				
到達目標	① 地域保育学科の学生として必要な知識、技能、態度等を学ぶ。 ② ノートの取り方及びレポート記述や発表の方法を学ぶ。 ③ 広い視野で自分を見つめ、これからの大学生活・学習に生かせる機会とする。 ④ 保育を学ぶ学生にとって必要な基礎学力を身につける。				
授業計画	第1回	授業の概要 学科専任教員の紹介	第16回	後期オリエンテーション	
	第2回	学校施設紹介 防災について	第17回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第3回	大学での学び 基礎学力の必要性	第18回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第4回	大学での学び ノートの取り方	第19回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第5回	大学での学び レポートの書き方	第20回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第6回	大学での学び レジュメの書き方	第21回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第7回	大学での学び 発表のしかた	第22回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第8回	課題研究	第23回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第9回	課題研究	第24回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第10回	発表①	第25回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第11回	発表②	第26回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第12回	学外講師による講演	第27回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第13回	社会人としての基礎（身体・生命・健康等）	第28回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第14回	社会人としての基礎（立ち居振る舞い・言葉遣い等）	第29回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
	第15回	前期まとめ	第30回	基礎学力講座 公務員試験対策講座	
授業に対する予習・復習	予習： 準備や振り返り等、自分と向き合う時間が必要である。		復習： 基礎学力については十分な復習を心がけ定着を図る。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（30%）、発表（20%）、授業態度（50%）				
教科書	『大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために』（藤田哲也ほか、北大路書房）				
参考文献					
注意事項	学外講師による講演や校外授業の日時および内容等は現在未定である。確定次第連絡するが、それに伴い授業計画も変更になる。				

科目名	日本国憲法	単位数	2	担当教員	平田 陽一
授業の内容	私達の国家は市民の良識により公正な社会を作ることを目指している。この目的を実現するために政府を作り、そして政府の守るべき規範として制定された法が憲法である。この視点から憲法の基本的な考え方を説明する。				
到達目標	① 憲法が制定された目的を理解することができる ② 憲法が前提としている「自律した市民」としての自覚を持つことができるようになること ③ 自己の判断により国の政策を選択できるようになること				
授業計画	第1回	憲法について（憲法は政府の守るべき法であること）			
	第2回	近代立憲主義（憲法が政治権力の濫用を防止するための法であること）			
	第3回	近代国家と憲法（政府の役割が国民の人権の保障であること）			
	第4回	平和主義（国際紛争を平和的手段で解決するということ）			
	第5回	国民主義（国家の政策は国民が決めるということ）			
	第6回	人権尊重主義（政府は国民の人権を侵害してはならないということ）			
	第7回	権力分立主義（政治権力の濫用を防止するため分割するということ）			
	第8回	人権（人間が人間として生まれながらに当然有する権利であること）			
	第9回	自由権（政府の人権侵害からの国民の自由について）			
	第10回	社会権（国民の人権を実現するために政府のなすべきことについて）			
	第11回	参政権など（国民の意思の表明などについて）			
	第12回	立法機関（国会の役割について）			
	第13回	行政機関（内閣の役割について）			
	第14回	司法機関（裁判所の役割について）			
	第15回	憲法の現代的諸問題			
授業に対する予習・復習	予習： 予習は困難と思われるので、特に必要としない。		復習： 単なる復習ではなく、基本的な問題を心に留めて考え続けることが望まれる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60%）、授業態度（40%）				
教科書	『現代社会の法と民法』（小野幸二編著、八千代出版）				
参考文献					
注意事項	一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、よい社会は自分達で作るという積極的な心構えで勉強すること。				

科目名	情報処理	単位数	2	担当教員	星野 治
授業の内容	<p>授業の前半では、Microsoft Office に含まれている、文書作成ソフト (Word) および表計算ソフト (Excel) の基礎を習得します。</p> <p>授業の後半では、Word や Excel を応用した課題に取り組みます。また、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) の基本的な取り扱いについても、簡単に触れます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 今日の私たちの日常生活ではコンピュータをはじめとする情報論理システムの活用が常識となりつつあることを念頭におきながら、幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法の一端に触れます。 パソコン初心者は、「習うよりも慣れること」の大切さを実感できるようになります。 パソコン経験者は、「より賢いパソコン活用の仕方」を考えられるようになります。 				
授業計画	第1回	ガイダンス (第1章～第2章、第3章 1.～9.) コンピュータとインターネット、モラルハザードについて、Windows の基礎知識、日本語入力の練習、その他。			
	第2回	Word の学習① (第3章 10.～14.) やさしいビジネス文書の作成練習、その他。			
	第3回	Word の学習② (第3章 15.～16.) 文書に対する基本的な修飾 (フォント、下線、網かけ、etc.)、その他。			
	第4回	Word の学習③ (第3章 17.～18.) 表の取り扱いかた、その他。			
	第5回	Word の学習④ (第3章 19.) 文書に対するやや高度な修飾 (ページ罫線、ワードアート、図形、etc.)、その他。			
	第6回	Excel の学習① (第4章 1.～6.) 基本的な表 (数表) の作成、その他。			
	第7回	Excel の学習② (第4章 7.～9.) より見やすい表 (数表) の作成 (表の装飾、グラフの取り扱い、etc.)、その他。			
	第8回	Excel の学習③ (第4章 10.～15.) より高度なデータ処理 (条件判定、セル参照、検索、フィルター、etc.)、その他。			
	第9回	Word および Excel の総復習 課題の作成を通して、これまでの学習内容の総復習を行います。			
	第10回	Word および Excel の応用① 幼児教育・保育の現場に即した課題の作成 (保護者あて通知、園便り、etc.)、その他。			
	第11回	Word および Excel の応用② 長文レポート (鑑賞文など) の作成、その他。			
	第12回	Word および Excel の応用③ Word および Excel を両方とも使用する課題の作成、Excel を利用した数学問題の解答、その他。			
	第13回	PowerPoint の基礎① (第5章 1.～4.) 簡単なスライドの作成、その他。			
	第14回	PowerPoint の基礎② (第5章 5.～13.) より高度なスライドの装飾 (ワードアート、アニメーション、etc.)、その他。			
	第15回	全体のまとめ 幼児教育・保育の現場での情報メディア活用法について、各自の見解をレポートとしてまとめます。			
授業に対する予習・復習	予習： 上記「授業計画」に示す教科書の章番号・節番号を目安にして、教科書の内容にあらかじめ目を通しておくことを推奨します。		復習： パソコン操作に慣れていない人は、授業の空き時間を利用するなどして、パソコンに触れる機会を増やしてください。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施 () する / (○) しない</p> <p>課題 (70%)、授業態度 (30%)</p>				
教科書	『30時間でマスター Office2010』(実教出版編修部、実教出版株式会社)				
参考文献	必要に応じて随時紹介します。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 履修登録するべき曜日・時限が指定されている場合、必ずその指定にしたがってください。 教科書を毎回、忘れずに持参してください。 教科書の付録 CD-ROM を、紛失したり破損したりしないように注意願います。 教科書の記載内容の一部を、より up to date な内容に置き換えて説明します。 無断欠席、無断遅刻等々、「無断～」な言動は厳禁です。 課題については、教科書所収の設問以外からも出題されます。 				

科目名	英 語	単位数	2	担当教員	杉山 早苗
授 業 の 内 容	脳性麻痺というハンディを背負った少女が周りの愛情に支えられて明るく成長する姿を、母親が描いた Marie Killilea の「Karen」を読む。また折に触れ、発音記号や発声法、文法や文化の違いについて述べる。				
到達目標	海外の文学作品に積極的に関わり、辞書を引きながら英文を読みこなせるようになる。 作品の精読と分析を通して、文化の違いを理解する。 発音記号や発声法を意識した音読ができるようになる。				
授 業 計 画	第 1 回	まだ身障者に対する偏見があった時代における本書の成立過程の説明及び授業の進め方。	第 16 週	この種の子供に対する親の叱り方についても学ぶよう注意を促しながら読む。	
	第 2 回	以降の授業については、基礎学力の不足を補う意味で、丁寧に構文や発音の指導を行う。	第 17 週	母親になったつもりで、ある場面を設定して叱る際の言葉を試しに英語で表現させてみる。	
	第 3 回	一人称の「主人公の母」の物語形式になっていることの効果を考えさせながら読む。	第 18 週	前の時間に書いた短文（叱り方）を写して提出させる。出来たら即座にチェックする。	
	第 4 回	脳性麻痺がどういう病気で、世界の現状はどうであるか知るところを話させながら読む。	第 19 週	平易な文章なので試験的に速読を試みる。	
	第 5 回	主人公カレンの家庭環境について今までに学んだことを整理させながら読む。	第 20 週	速読と Q and A	
	第 6 回	障害に関する英語表記の種々の変化について発表させ、その理由を考える。	第 21 週	速読と Q and A	
	第 7 回	カレンのおかげで家族がどう変化したか、具体的に再確認させて読む。	第 22 週	前の章の内容を簡単に発表できる（不足の場合は補充）習慣を徹底させながら読む。	
	第 8 回	カレンを中心とするエピソードの積み重ねを分類してメモさせながら読む。	第 23 週	自分がカレンになったつもりで、その思いを英語の短文にまとめながら読む。	
	第 9 回	両親の苦心とカレンの苦勞。各自の単語増法を話し合わせ、助言する。	第 24 週	速読と Q and A	
	第 10 回	人間における「違い」と「差別」という問題を学生自身の問題にひきつけて考え読む。	第 25 週	可能なならば、同じような状況にある英米人の、新聞の人生欄への投書をプリントして読む。	
	第 11 回	これまでのを本文を応用しながら要約する宿題を出す - 先に要約の仕方を簡単に説明する。	第 26 週	ヘレン・ケラーの伝記（The Story of My Life）を紹介し、その一部をプリントして読む。	
	第 12 回	前の時間に出した課題から選んだ幾つかの例を読んで聞かせてから続きを読む。	第 27 週	パール・バックの（The Child Who Never Grew）を紹介し、その一部をプリントして読む。	
	第 13 回	学校や世間での身体障害者に対する姿勢を現実的に考えながら読む。	第 28 週	これまでの重要構文や重要な慣用句の総ざらいをしながら、学生に朗読させる。	
	第 14 回	将来のために甘やかすまい(independence)という両親の決心をどう思うかを考え読む。	第 29 週	読み終わった感想を話し合い、障害者への理解と扶助を誓い合えたら成功である。	
	第 15 回	周囲の目からカレンを守る両親の勇気に注目しながら読む。	第 30 週	これまでのまとめ	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 割り当てた範囲に対して、辞書を活用し自分なりの和訳を作成してくること。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、発表（20%）、授業態度（30%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	授業は基本的に指名された人が和訳を発表する。				

科目名	体育実技		単位数	1	担当教員	岡 芳郎
授業の内容	授業では、身体活動の体験を通して心身の調和を図り、健康な身体の保持増進に努めることによって、生涯にわたって豊かな生活を営むために必要な運動の技能や知識を習得すること。また、将来の社会生活において運動やスポーツを通じて、さまざまな身体コミュニケーションを行うことの意義について理解を深めることを目的に授業を実施する。					
到達目標	1) 運動・スポーツを通して主体性・協調性・社会性・道徳性など身につける。 2) 幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を習得し、自ら動ける身体を作り、体力の維持増強を図ることができる。 3) 幼児教育者として適切に動け、子どもを援助指導できるように学生の運動に関する資質の向上を図ることができる。					
授業計画	第1回	授業ガイダンス 履修方法、受講上の注意事項について説明	第16回	フットサル③ (A・Bブロック総当たり リーグ戦)		
	第2回	からだほぐし (なわとび・ボールを使って)	第17回	卓球① (各種ストロークの練習 簡易ゲーム)		
	第3回	ドッチボール① (クラス内対抗マッチ)	第18回	卓球② (A・Bブロック総当たり リーグ戦)		
	第4回	ドッチボール② (クラス内対抗マッチ)	第19回	テニス① (各種ストロークの練習 簡易ゲーム)		
	第5回	バドミントン① (各種ストロークの練習 簡易ゲーム)	第20回	テニス② (各種ストロークの練習 簡易ゲーム)		
	第6回	バドミントン② (ダブルスゲーム リーグ戦)	第21回	短なわとび検定① (両足とび・綾とび・交差とび 前・後10回)		
	第7回	バドミントン③ (ダブルスゲーム リーグ戦)	第22回	短なわとび検定② (二重とび 前・後10回 ハヤブサ 前・後10回)		
	第8回	バスケットボール① (パス・ドリブル・シュート練習 簡易ゲーム)	第23回			
	第9回	バスケットボール② (A・Bブロック総当たり リーグ戦)	第24回			
	第10回	バスケットボール③ (A・B・ブロック総当たり リーグ戦)	第25回			
	第11回	ソフトバレーボール① (パス・アタック・サーブ練習 簡易ゲーム)	第26回			
	第12回	ソフトバレーボール② (A・Bブロック総当たり リーグ戦)	第27回			
	第13回	ソフトバレーボール③ (A・Bブロック総当たり リーグ戦)	第28回			
	第14回	フットサル① (パス・ドリブル・シュート練習 簡易ゲーム)	第29回			
	第15回	フットサル② (A・Bブロック総当たり リーグ戦)	第30回			
授業に対する予習・復習	予習： 授業で実施する実技について基本技術やルールを把握しておくこと。		復習：			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 () する / (○) しない レポート (10%)、課題 (20%)、実技 (30%)、授業態度 (40%)					
教科書						
参考文献						
注意事項	授業は3つのコースから選択できる (1. 平常コース 2. スケート教室 3. スキー教室) ※スケート・スキー教室にかかる各諸費用については全額学生負担となる。 指定された体操着を着用すること。 シューズは体育館用・外用を準備すること。 ※欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合は評価の対象外となる。					

科目名	体育講義	単位数	1	担当教員	岡 芳郎
授業の内容	本講義では、「健康」「運動」「スポーツ」の実践の基盤となる理論的な事柄について理解を深めていくことを目的に、健康・体力・運動について正しい知識を学び健康的なライフスタイルを目指せるようにする。また、さまざまな生活習慣病について学び、運動・栄養・休養との関係について考えていく。				
到達目標	1) 健康とは何かについて自分の考えが述べられる。 2) 生活習慣病とその対策について理解することができる。 3) 自らの健康の保持増進方法を考え、実践することができる。				
授業計画	第1回	授業ガイダンス 性格について（性格の形成 性格の分類 性格診断）			
	第2回	血液について（血液の役割 血液の成分 血液型の比率） 血液型の遺伝システム 輸血について			
	第3回	人体のしくみ （各器官系の働きについて）			
	第4回	運動器系の構造と働き （骨格系・筋肉系・関節の働きについて）			
	第5回	神経系の構造と働き （脳の構造・機能 右脳左脳の働きについて）			
	第6回	体力・運動能力の定義 （種類・構造・基本的な体力要素について）			
	第7回	健康の定義・健康の考え方 （食事・運動・休養との関係について）			
	第8回	生活習慣病と健康 （体型・体格の3要素 標準体重 BMI について）			
	第9回	全体のまとめ			
	第10回				
	第11回				
	第12回				
	第13回				
	第14回				
	第15回				
授業に対する予習・復習	予習： 授業で扱うテーマに関連する記事（雑誌・新聞等）をスクラップする。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、レポート（10%）、課題（10%）、授業態度（30%）				
教科書	「体育実技」の授業内で指示する				
参考文献					
注意事項	授業開始は11月からである。 授業中の飲食禁止 授業中の携帯電話の使用禁止 ※欠席回数が全授業の3分の1を超えた場合は評価の対象外となる。				

科目名	心理学入門	単位数	2	担当教員	三好 力
授業の内容	<p>心理学という大変広い領域について、幅広い視点からテーマを取り上げ概観していく。内容は基本的なものを中心に取り上げながら、現代社会のホットなテーマなどにも焦点を当てて、初学者にわかりやすいレベルに砕きながら講義する。</p> <p>また、専門の授業につなげていけるような基本的な土台を作る。</p>				
到達目標	<p>心理学の基礎知識の習得を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の幅広い領域について理解し説明できる。 2. 心理学について興味と関心を持ち、考察することができる。 3. 教育心理や発達心理、臨床心理などの専門科目へ応用していくことができる。 				
授業計画	第1回	イントロダクション： 心理学ダイジェスト。日常生活の中にある様々な場面での心理学関連事項を紹介。			
	第2回	脳とこころ 脳のミクロ構造とマクロ構造。ペンフィールドの脳刺激実験。神経心理学症状について。			
	第3回	比較心理学 行動とは何か。行動の生得性と獲得性。行動の性特性について考える。			
	第4回	知覚心理学 形の知覚。知覚の恒常性。対比効果。奥行き知覚。運動の知覚。			
	第5回	学習心理 「学習」とは。古典的条件づけ。道具的条件づけ。社会的学習。			
	第6回	思考の心理 演繹的推論と帰納的推論。問題解決と意志決定。			
	第7回	記憶の心理 記憶する過程。記憶の二貯蔵庫モデル。短期記憶とワーキングメモリー。長期記憶の構造。			
	第8回	感情と動機づけの心理 感情はどのようにして起こるのか。感情の諸理論。欲求と動機。外発的動機づけと内発的動機づけ。			
	第9回	生涯発達心理 生涯発達のアプローチ。生涯発達に関する理論。発達段階と発達課題。			
	第10回	パーソナリティ心理 パーソナリティとは。類型論と特性論。パーソナリティの構造と防衛機制。パーソナリティ・アセスメント。			
	第11回	ストレス心理 心理的ストレス。問題焦点型と情動焦点型コーピング。ハーディネスとレジリエンス。			
	第12回	発達障害心理 発達障害とは。知的障害。発達障害の概要と特徴を知る。発達障害の支援。			
	第13回	家族心理 家族とは。婚姻と離婚。子育て。家族と労働。家族の危機と葛藤。			
	第14回	対人心理 他者に向けての「自己」。対人魅力。非言語的コミュニケーション。対人不安。			
	第15回	まとめ 現代社会と心理学			
授業に対する予習・復習	予習： 授業内でアナウンスします。		復習： 教科書で関連内容を理解し、重要項目の知識を深めていくこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（80%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	『テキスト心理学』（大石史博編、ナカニシヤ出版）				
参考文献					
注意事項	<p>出席時間数が授業時間数の 2/3 以上であり、かつ、筆記試験および平常点等の成績を総合して合格と判断された場合、所定の単位が与えられます。</p> <p>授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上で平常点を減点し、場合によっては退出させることもありますので注意してください。</p>				

科目名	マンガ・イラスト表現	単位数	2	担当教員	飯田 耕一郎
授業の内容	<p>マンガは絵と物語の両方を合わせた世界なので、デッサン、キャラクター、背景、パースなどの基本を複合的に進めていく形になると思います。</p> <p>イラストもまた物語性を理解することによって創作の幅が広がるものと考えて大きな区別はありません。</p>				
到達目標	<p>人物の顔と表情が描き分けられるようにし、いろんなキャラを描けるようになること。</p> <p>人物の全身は難しいですが、ちびキャラでバランスを理解し描けるようになること。</p> <p>人物に合わせて背景も描けるためのパースの基礎を理解できるようになること。</p>				
授業計画	第1回	【○と□を描こう】円と四角をちゃんと描けることが基本の基本。			
	第2回	【いろんな表情を描こう】表情が変化するパターンを学ぶ。			
	第3回	【喜怒哀楽の表情を描こう】感情表現を理解する。			
	第4回	【二頭身キャラを描こう】シンプルなマスコットキャラを描く。			
	第5回	【二頭身キャラのアクション】マスコットキャラにアクションを持たせる。			
	第6回	【三頭身キャラを描こう】ちびキャラを描く。			
	第7回	【三頭身キャラのアクション】ちびキャラにアクションを持たせる。			
	第8回	【一点透視図法を学ぼう】パースを理解する。			
	第9回	【二点透視図法と三点透視図法を学ぼう】パースを理解するの二回目。			
	第10回	【顔の角度を変えて描いてみよう】いろんな角度で顔を描けるようになる。			
	第11回	【倒れた瓶を模写してみよう】模写の仕方を学ぶ。			
	第12回	【シワの描き方を学ぼう】服などのシワの理屈を学ぶ。			
	第13回	【六頭身キャラを描いてみよう】シリアスサイズのキャラを学ぶ。			
	第14回	【全身で感情表現してみよう】感情とアクションを全身で描く。			
	第15回	【色を塗ってみよう】カラー表現を学ぶ。			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： シンプルな課題は自宅で反復練習することによってより上達していきます。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（30%）、作品（20%）、実技（30%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	特になし。				
参考文献	特になし。				
注意事項					

科目名	日本語表現	単位数	2	担当教員	浅木 尚実
授業の内容	文章作成の基本を知り、美しい日本語、読みやすい文章と何かを学ぶ。 近現代の著名な著書の文章を鑑賞しながら、自身の文章力を鍛える。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、熟語、語彙を増やし、日本語力の向上を目指す。 ・わかりやすい文章の基本を学び、理解しやすい文章技術を身に付ける。 ・名文読み、美しい文章を鑑賞しながら習得する。 ・身に付けた文章作法にのっとってオリジナルの文章を書き、推敲する。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	随筆を読む			
	第3回	作文の書き方の基本			
	第4回	レポートの書き方の基本			
	第5回	保育士に必要な日本語トレーニング① 正しい表記の仕方 間違えやすい用語・漢字			
	第6回	保育士に必要な日本語トレーニング② 手紙、はがきの書き方			
	第7回	保育士に必要な日本語トレーニング③ 履歴書の書き方 自己分析			
	第8回	保育士に必要な日本語トレーニング④ 敬語の使い方Ⅰ：敬語の基本を知る			
	第9回	保育士に必要な日本語トレーニング⑤ 敬語の使い方Ⅱ：敬語を使ってみる			
	第10回	保育士に必要な日本語トレーニング⑥ 連絡帳の書き方Ⅰ：書き方の基本を学ぶ			
	第11回	保育士に必要な日本語トレーニング⑦ 連絡帳の書き方Ⅱ：例文を書く			
	第12回	自己分析と履歴書の書き方			
	第13回	自由文① テーマの選択			
	第14回	自由文② わかりやすい文章とは？			
	第15回	自由文③ 推敲及び引用等の仕方			
授業に対する予習・復習	予習： 配布したプリントの予習		復習： 配布したプリントの復習 作文の推敲		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（50%）、課題（40%）、授業態度（10%）				
教科書	『保育者になるための国語表現』（田上貞一郎、萌文書林）				
参考文献	その都度紹介する。				
注意事項	小テストを行なう。				

科目名	生命と科学	単位数	2	担当教員	星野 治
授業の内容	<p>この授業では、「生命」や「科学」をテーマとするいろいろなドキュメンタリーや文芸作品（科学者が著した文章など）を、できるだけたくさん鑑賞します。</p> <p>具体的には、第一級の科学者の手になる文章（論文など）を、今のうちから読み慣れていきます。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」を守り育てることの意義について、各自なりに考察する良い機会を得られます。 ・「いのち」を守り育てるための技術について、知見を深めることができます。 ・この授業では、レポートの作成が頻繁に求められます。このことを通して、他の授業（卒業研究を含む）における上手なレポートの書きかたを学習できます。 				
授業計画	第1回	ガイダンス 授業全体の流れについての説明を行います。			
	第2回	「生命」や「科学」を学ぶ第一歩 科学雑誌『Newton』を読みます。			
	第3回	災害と科学 「生命」を守るための「科学」のありかたを考察します。			
	第4回	自然災害に関する様々な話題① 固体地球科学的な視点からみた「生命」を考察します。			
	第5回	自然災害に関する様々な話題② 流体地球科学的な視点からみた「生命」を考察します。			
	第6回	人為災害に関する様々な話題① 火災、事故などに翻弄される「生命」を考察します。			
	第7回	人為災害に関する様々な話題② 戦争、テロ行為などに翻弄される「生命」を考察します。			
	第8回	保育者の視点からみた災害 過去の自然災害における被災例を概観します。			
	第9回	保育者の視点からみた防災 イマジネーションツール『目黒巻（めぐろまき）』を紹介します。			
	第10回	ネットサーフィン 防災情報の最前線を垣間見ます。			
	第11回	保育者のための文芸作品紹介① “加古里子（かことし）四部作”（『海』『地球』『宇宙』『人間』）を鑑賞します。			
	第12回	保育者のための文芸作品紹介② 「生命」を扱った絵本等を鑑賞します。			
	第13回	保育者のための文芸作品紹介③ 「科学」を扱った絵本等を鑑賞します。			
	第14回	保育者のための文芸作品紹介④ 災害を扱った絵本等を鑑賞します。			
	第15回	総括 授業内容全体のまとめを行います。			
授業に対する予習・復習	予習： 予習を必要とする事柄については、担当教員からの指示に従ってください。特に、授業後半の“文芸作品紹介”では、レジュメ作成などの事前作業が必要です。		復習： 復習を必要とする事柄については、担当教員が指示します。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、授業態度（30%）				
教科書	必要に応じて随時指定します。				
参考文献	必要に応じて随時紹介します。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容上、文芸作品は映像作品（映画、コミック、etc.）に偏りがちになります。そのため、この授業ではできる限り、“文字を通じた情報理解”を目指します。 ・災害や防災に関する話題には、精神的にかなり厳しくかつ深刻な内容のものが少なくありません。その点を充分に考慮したうえで、履修してください。 				

科目名	教育原理	単位数	2	担当教員	越川 葉子
授業の内容	子どもは生まれた直後から家族をはじめとする様々な他者（社会）との出会いを経験する。本講義では、教育の思想・歴史・制度の基礎的な理解と、受講生がこれまで経験をしたきた「教育」という営みをとらえ直すことを目的とする。講義の後半では、今日的な教育の課題へと視野を広げ、子どもをとりまく現状について理解を深める。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関わる基礎的な思想・歴史・制度を理解することができる。 ・自分自身の教育観や子ども観を捉えなおすことができる。 ・教育の今日的な課題に目を向け、自分なりの見解を述べることができる。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション—講義の受け方・進め方について—			
	第2回	人間とは何か—ほ乳類動物の赤ちゃんとの比較からみる人間の赤ちゃんの特徴—			
	第3回	教育の原理①—人間の子育ての特徴—			
	第4回	教育の原理②—言語獲得以前の子どもと大人の関わり—			
	第5回	教育の原理③—生活形式の共有—			
	第6回	教育の思想①—「教育」とは何か—			
	第7回	教育の思想②—「子ども」の誕生—			
	第8回	教育の歴史—近代学校教育制度の成立—			
	第9回	教育の制度①—教育法のしくみ—			
	第10回	教育の制度②—義務教育制度を考える—			
	第11回	教育の制度③—特別支援教育を考える—			
	第12回	教育の今日的な課題①—発達障害とは何か—			
	第13回	教育の今日的な課題②—幼小接続を考える—			
	第14回	社会の中の子ども①—家族の多様化を考える—			
	第15回	社会の中の子ども②—子育ての社会化を考える—			
授業に対する予習・復習	予習： 日ごろから、子どもや子育て、教育に関する報道に目を向けておくこと。		復習： 講義で配布したプリントを再読し、疑問点をまとめておくこと。 講義で紹介した資料や参考文献を手にとり、自分の目で再読すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（60%）、課題（20%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし				
参考文献	『教育原理』（広田照幸・塩崎美穂・樹村房）、『人間はどこまで動物か』（アドルフ・ポルトマン、岩波新書）				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語や不要物の持込は認めない。 ・授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。 ・授業内に受講生に意見を求める予定である。受講生が積極的に質問・意見を表明することを期待する。 				

科目名	保育原理 I	単位数	2	担当教員	土屋 由
授業の内容	保育の制度や現状を理解し、「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」を踏まえて、生活や遊びを中心とした保育内容、子ども理解や保育の計画といった保育の基本的な考え方を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活や遊びにかかわる保育者として、必要な知識や基本的な考え方を身につける。 ・保育の制度や現状、及び課題がわかる。 ・子どもの育ちだけではなく、保育の場にかかわる保護者、保育者にとっての保育の意義を理解する。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	保育の場 子ども・保護者・保育者、それぞれが育つ場所			
	第3回	保育の制度と現状			
	第4回	幼稚園の一日、保育園の一日			
	第5回	保育の基本的な考え方①子どもの主体性を尊重する			
	第6回	②遊びを中心とする保育			
	第7回	③環境を通しての育ち			
	第8回	④子ども一人ひとりの発達過程を捉える			
	第9回	⑤個と集団			
	第10回	⑥保育課程・教育課程と指導計画			
	第11回	子どもと自然			
	第12回	子どもと文化			
	第13回	保育における子ども理解			
	第14回	保育者に求められるもの			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。	復習： 授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、レポート（20%）、課題（10%）				
教科書	『最新保育講座1 保育原理』（森上史朗、小林紀子、若月芳浩 編、ミネルヴァ書房）				
参考文献	参考文献は、授業において紹介する。				
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。				

科目名	教育心理学	単位数	2	担当教員	大熊 美佳子
授業の内容	幼児教育において、子どもの発達や学習過程を理解し、子どもへの対応を考えることは非常に重要です。本講義では、教育に関わる子どもの発達、学習のメカニズム、動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得することを目的とします。				
到達目標	①教育心理学の基本用語を正確に理解する ②子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につける ③教育者として必要な心理学的な関わり方を学ぶ				
授業計画	第1回	教育心理学とは ガイダンスと導入として教育心理学を学ぶ意味、子どもにとって教育とは何かを考える。			
	第2回	子どもの発達① 発達とは何か			
	第3回	子どもの発達② 発達過程について			
	第4回	認知発達 ピアジェの認知発達理論、ヴィゴツキーの最近接領域などの発達理論について			
	第5回	学習理論① 学習とは何か			
	第6回	学習理論② 条件づけ			
	第7回	学習理論③ 社会的学習理論について			
	第8回	子どものやる気① 動機づけ理論について			
	第9回	子どものやる気② 意欲と無気力			
	第10回	子どものやる気③ 褒めること、叱ること			
	第11回	子どもの個性を理解する① パーソナリティ理論			
	第12回	子どもの個性を理解する② 知能について			
	第13回	教育環境 移行期への対応			
	第14回	教育方法① 教授方法について			
	第15回	教育方法② 評価について			
授業に対する予習・復習	予習：	復習：			配布するプリントを中心に、各回の授業内容を復習し、疑問点があれば次回に確認すること。
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（60%）、課題（20%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし				
参考文献	講義の中で適宜紹介します。				
注意事項	講義形式で行います。 将来教育現場で子どもに関わるために必要な知識を身につけるために、講義の内容を具体的にイメージしながら理解を深めてください。				

科目名	発達心理学	単位数	2	担当教員	伊藤 明芳
授業の内容	<p>保育者が子ども（保護者）の問題や課題に向き合う時、人の心身の発達の基本的、標準的な様相やその概要等を学んでおくことは有益である。それらが、保育者として、さまざまな子どもの発達や問題を考えていく際の大切な基礎となる。</p> <p>本講義では、発達心理学の必要な基礎的知識の習得と将来現場で活かせる基本的な実践能力の育成を図ることを目的とする。</p>				
到達目標	<p>①発達心理学の基礎的知識を習得できる。</p> <p>②子どもや保護者の心の発達理解にどのように活かせるのかを考えられるようになる。</p> <p>③学んだ知識を活用して、子どもの心の発達等について考えられる力を身につける。</p>				
授業計画	第1回	イントロダクション [発達心理学とは何か等]			
	第2回	発達を理解するための基礎① [発達の機能連関性]			
	第3回	発達を理解するための基礎② [発達心理学と保育・教育]			
	第4回	乳幼児期の発達① [運動機能と認知・思考の発達]			
	第5回	乳幼児期の発達② [感情と自己の発達]			
	第6回	乳幼児期の発達③ [ことばの発達]			
	第7回	乳幼児期の発達④ [社会性の発達]			
	第8回	児童期の発達① [学校への適応・知的機能の発達]			
	第9回	児童期の発達② [自尊感情・友だち関係]			
	第10回	青年期の発達① [青年期の悩み]			
	第11回	青年期の発達② [アイデンティティ・友人関係]			
	第12回	成人期 [夫婦関係と子育て・働くこととキャリア]			
	第13回	老年期の発達 [老年期の QOL]			
	第14回	発達障害 [障害児の発達と支援]			
	第15回	まとめと今後へのアドバイス			
授業に対する予習・復習	予習： 授業前に教科書の該当箇所を読みこんでおくこと。	復習：	毎回、学んだ知識を正確に習得できるようにすること。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する / （ ）しない</p> <p>筆記試験（80%）、レポート（20%）</p>				
教科書	『発達心理学』（越智幸一 編、大学図書出版、2015）				
参考文献	講義の際に随時紹介				
注意事項	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。</p> <p>受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>				

科目名	子どもの保健 I	単位数	4	担当教員	田中 倬
授業の内容	<p>子どもの健康と保健の意義について学ぶ。</p> <p>前期では、「健康や保健の概念」「発育・発達の特徴」「心の健康」「子どもの食生活と栄養」「生命の仕組み」など、からだや心の基本的知識について習得する。</p> <p>後期では、「子どものかかりやすい病気」「感染症の予防」「子どもの事故」「保育環境」など、保育現場における具体的な事柄について学ぶ。</p>				
到達目標	<p>① 健康や病気・障害、生命の科学的知識を習得する。</p> <p>② 乳幼児の発育・発達について、年齢に応じた客観的な評価ができる。</p> <p>③ 日常遭遇する子どもの病気について、適切な対応ができる。</p> <p>④ 発達段階に応じた事故予防を実践することができる。</p>				
授業計画	第1回	保育における子どもの保健	第16回	子どもの健康状態の把握	
	第2回	健康の概念と小児保健統計	第17回	子どもかかりやすい病気①ウイルス性感染症	
	第3回	子どもの発育（成長）	第18回	〃	②細菌性感染症
	第4回	乳幼児身体発育曲線	第19回	〃	③呼吸器、消化器の病気
	第5回	運動機能の発達	第20回	〃	④皮膚、目の病気
	第6回	言葉・社会性の発達	第21回	〃	⑤泌尿器の病気
	第7回	乳幼児発達検査表の見方、使い方	第22回	〃	⑥脳、神経の病気
	第8回	生理機能の発達	第23回	〃	⑦循環器の病気
	第9回	感覚機能の発達	第24回	〃	⑧アレルギー疾患
	第10回	子どもの心の健康	第25回	〃	⑨その他の病気
	第11回	子どもの食と栄養	第26回	感染症の予防、予防接種	
	第12回	生命の仕組み①細胞、遺伝子、染色体	第27回	学校感染症、健康診断	
	第13回	〃 ②優性遺伝、劣性遺伝、伴性遺伝	第28回	子どもの事故	
	第14回	〃 ③染色体異常	第29回	保育環境	
	第15回	〃 ④多因子性遺伝	第30回	健やかな育ち	
授業に対する予習・復習	予習： 次回の内容について、教科書に目を通しておく。		復習： 教科書と配布資料の内容を理解して読む。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（70%）、レポート（10%）、課題（10%）、授業態度（10%）</p>				
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健 I』（鈴木美枝子編著、創成社）				
参考文献					
注意事項					

科目名	社 会 福 祉	単位数	2	担当教員	秋山 展子
授 業 の 内 容	本講義では、現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉政策におけるニーズと資源、福祉政策の構成要素やその課題などについて学ぶことを目的としている。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化について理解する。 ・福祉政策を理解する。 ・現代における福祉課題を理解する。 				
授 業 計 画	第1回	社会福祉の新たな展開			
	第2回	福祉政策理解の枠組み			
	第3回	社会の変化と福祉			
	第4回	福祉と福祉政策			
	第5回	福祉の思想と哲学			
	第6回	社会政策と福祉政策			
	第7回	福祉政策の発展過程			
	第8回	少子高齢化時代の福祉背策			
	第9回	福祉政策における必要と資源			
	第10回	福祉政策の理念・主体・手法			
	第11回	福祉政策の関連領域			
	第12回	社会福祉制度の体系			
	第13回	福祉サービスの提供			
	第14回	福祉政策の国際比較			
	第15回	これまでのまとめ			
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習：		復習： 配布した資料を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
成 績 評 価 の 方 法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（60%）、課題（10%）、授業態度（30%）</p> <p>※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。</p>				
教 科 書	授業でプリント配布				
参 考 文 献					
注 意 事 項	提出物の期限は厳守すること。				

科目名	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	秋山 展子
授業の内容	現代社会における児童の成長・発達、生活実態や児童福祉の背景、児童福祉の理念や意義について学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉関係法とサービス体系の供給を理解する。 専門職のあり方や児童福祉と環境との関わりの問題を理解する。 相談援助活動や家族支援のための施策等について理解する。 				
授業計画	第1回	現代社会と子ども家庭			
	第2回	子どもの育ち、子育てのニーズ			
	第3回	子ども家庭福祉とは何か			
	第4回	子どもと家庭の権利保障			
	第5回	子ども家庭福祉にかかわる法制度			
	第6回	子ども家庭福祉の実施体制			
	第7回	子ども家庭福祉の専門職			
	第8回	子ども家庭にかかわる福祉・保健			
	第9回	児童健全育成			
	第10回	ひとり親家庭の福祉			
	第11回	児童虐待対策			
	第12回	非行児童・情緒障害児への支援			
	第13回	子どもと家庭にかかわる女性福祉			
	第14回	子ども家庭への援助活動			
	第15回	これまでのまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 配布した資料や教科書を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（60%）、課題（10%）、授業態度（30%） ※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。				
教科書	『保育者養成シリーズ 新版・児童家庭福祉論』（山崎順子・高玉和子・和田上貴昭編著、一芸社）				
参考文献					
注意事項	提出物の期限は厳守すること。				

科目名	音楽 I (基礎音楽)	単位数	2	担当教員	大輪 公孝
授業の内容	幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を学ぶと共に、音楽教育技術を身につけることを目的とする。				
到達目標	ソルフェージュ（音感教育）をベースに、学生諸氏が下記の訓練を通して唱歌・童謡における基本的な音楽要素を身につけ、ピアノ演奏及び歌唱等を教育現場で実践出来ることを目標とする。 1. リズム唱、リズム叩き、リズム書き取り。 2. 旋律歌唱、旋律書き取り。 3. 和音書き取り。				
授業計画	第1回	楽典（譜表）	第16回	主要3和音と調音	
	第2回	(音名・階名)	第17回	全音符・休符、2分音符・休符を含む書き取り	
	第3回	(楽語・音程・調について)	第18回	4分音符・休符、8分音符・休符を含む書き取り	
	第4回	(音・休符の種類と和音について)	第19回	16分音符・休符、付点音符を含む書き取り	
	第5回	リズムの基本(全音符・休符、2分音符・休符)	第20回	3連符及び他の連符を含む書き取り	
	第6回	リズムの基本(4分音符・休符、8分音符・休符)	第21回	タイを含むリズムの書き取り	
	第7回	リズムの基本(16分音符・休符、付点音符を含む)	第22回	タイを含む旋律の書き取り	
	第8回	リズムの基本(3連符及び他の連符)	第23回	異なった複数のリズムをもつ旋律の書き取り	
	第9回	タイを含むリズム	第24回	主要3和音の書き取り	
	第10回	異なった複数のリズム	第25回	主要3和音(転回形)書き取り	
	第11回	リズムカノン唱	第26回	唱歌・童謡中の基本旋律(第5回、第6回)の書き取り	
	第12回	リズムカノン叩き	第27回	唱歌・童謡中の基本旋律(第7回、第8回)の書き取り	
	第13回	リズム諸楽器の解説	第28回	唱歌・童謡中の基本旋律(第9回、第10回)の書き取り	
	第14回	リズム諸楽器の実践	第29回	唱歌・童謡中の基本旋律(第5回～第10回)の書き取り	
	第15回	まとめ	第30回	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習：リズムの名称とその意味及び音名（ラテン・伊・仏によるドレミ読み、日本語読み、英米語読み）を確実に覚える。		復習：学習したリズムを一定の拍子に基づいて叩く練習を行う。 ピアノ練習曲テキストの両手の旋律のリズムのみを叩く練習を行う。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験：実施（ ）する／（○）しない レポート（20%）、課題（20%）、実技（30%）、授業態度（30%）				
教科書	『新・幼児の音楽教育』（井口太、朝日出版社）				
参考文献	『実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子、カワイ出版） 『幼稚園教諭・保育士を目指す人のための新しいピアノ教則本』（田口・高崎・大輪編、カワイ出版）				
注意事項	講義内容を理解出来ないまま終わらせたくないので質問を歓迎する。（授業時間外でも可） 尚、授業中の私語・飲食は厳しく注意する。 机の上に飲食物を置かないこと。 これらの注意に従わない者は学生証を提示の上、退室を命ずることがある。 授業内でレポート・小テスト等を実施する予定。 各自五線紙付きノートを用意すること。				

科目名	総合演習 I			単位数	2	担当教員	染谷哲夫・橋本洋子・星野治			
授業の内容	少子社会が進む中様々な対策がなされているが、子どもが安心して育つ環境が十分に整えられているとはいえない。そこで、本演習では、3グループに分かれて子どもを取り巻く実状を様々な視点から捉え、理解し、視野を広げるとともに、保育者として適切な対応ができる保育力を養う。また、次年度に開講される総合演習Ⅱ（卒業研究）のテーマや作業方針を決めるためのヒントを習得する。									
到達目標	1. 子どもの造形活動について主体的に学び理解を深める 2. 文献検索及び発表を通して、保育者として必要な知識・情報を得るための適切な手段を身につける 3. 弱者を守ることを意味を考えながら、防災に対する心構えを習得する									
授業計画	第1週	合同授業 本演習のねらい・進め方などに関する説明			第16週	(橋本)	(星野)	(染谷)		
	第2週	(染谷) 自然と子どもの造形表現①	(橋本) 子どもの食生活の現状	(星野) 防災の基礎知識	第17週	第2週～第9週と同じ	第2週～第9週と同じ	第2週～第9週と同じ		
	第3週	自然と子どもの造形表現②	健康を考える	文芸作品と防災(1)	第18週					
	第4週	造形表現の発達①	論文の検索と読み方	文芸作品と防災(2)	第19週				合同授業	
	第5週	造形表現の発達②	文献調査	保育と防災	第20週	(星野) 第2週～第9週と同じ	(染谷) 第2週～第9週と同じ	(橋本) 第2週～第9週と同じ		
	第6週	造形表現の発達③	文献調査	文芸作品と防災(3)	第21週					
	第7週	造形教材研究①	研究発表(1)	文芸作品と防災(4)	第22週					
	第8週	造形教材研究②	研究発表(2)	防災関連の最新情報	第23週					
	第9週	造形教材研究発表	研究発表(3) 演習まとめ	演習まとめ	第24週					
	第10週	合同授業			第25週					
	第11週	(橋本)	(星野)	(染谷)	第26週					
	第12週	第2週～第9週と同じ	第2週～第9週と同じ	第2週～第9週と同じ	第27週					
	第13週				第28週	合同授業：総合演習Ⅱ(卒業研究)への準備、その他				
	第14週				第29週	合同授業				
	第15週				第30週	合同授業 全体のまとめ				
第15週					第30週					
授業に対する予習・復習	予習および復習：ラウンド毎に研究発表を行う。授業時間内で準備できない場合、教員の指示にしたがい期日までに課題を済ませておくこと									
成績評価の方法	試験期間における定期試験：実施()する/ (○)しない レポート(40%)、発表(40%)、授業態度(20%)									
教科書	必要に応じて随時紹介する									
参考文献	必要に応じて随時紹介する									
注意事項	グループ毎の演習8回を1ラウンドとするオムニバス形式が中心となる。各ラウンドの担当教員の指導にしたがうこと。									

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	染谷 哲夫
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。美術・図画工作・造形に関する分野についての研究であり、主なテーマとしては、『絵本や紙芝居の研究・制作』『手作りおもちゃの研究・制作』『教材研究について』『子どもの造形表現活動について』『造形教育の歴史』等である。					
到達目標	各自のテーマに基づいて主体的に研究論文をまとめる。このことを通じ保育者として必要な専門的知識をさらに深める。					
授業計画	第1回	授業の進め方と年間計画		第16回	後期授業の進め方	
	第2回	研究テーマの選定①		第17回	研究・制作⑥	
	第3回	研究テーマの選定②		第18回	研究・制作⑦	
	第4回	研究テーマの選定③		第19回	研究・制作⑧	
	第5回	研究テーマの決定・計画		第20回	研究・制作⑨	
	第6回	文献・資料収集①		第21回	研究・制作⑩	
	第7回	文献・資料収集②		第22回	研究・制作⑪	
	第8回	文献・資料収集③		第23回	研究・制作⑫	
	第9回	研究の視点・構成①		第24回	研究成果 修正とまとめ①	
	第10回	研究の視点・構成②		第25回	研究成果 修正とまとめ②	
	第11回	研究・制作①（中間発表）		第26回	研究成果 修正とまとめ③	
	第12回	研究・制作②		第27回	研究成果 修正とまとめ④	
	第13回	研究・制作③		第28回	研究成果 発表①	
	第14回	研究・制作④		第29回	研究成果 発表②	
	第15回	研究・制作⑤（前期まとめ）		第30回	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習： 問題意識を持ちながら積極的に取り組む			復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60%）、発表（10%）、授業態度（30%）					
教科書						
参考文献	必要に応じて案内する。					
注意事項	自分の研究テーマを明確にし、3年間のまとめとして充実した研究となるよう期待している。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	橋本 洋子
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。研究テーマは食や健康など日常生活全般にわたる。					
到達目標	演習生一人ひとりが、 ①子どもを取り巻く生活環境を理解する ②研究テーマをみつけ様々な角度から情報を収集し検証する力を身につける ③調査結果等から疑問を解決し、まとめる力を身につける ことを主たる目標とする。					
授業計画	第1回	講義の方針と進め方について	第16回	論文の執筆・フィールドワーク		
	第2回	各学生により研究テーマの選定・計画①	第17回	論文の執筆・フィールドワーク		
	第3回	各学生により研究テーマの選定・計画②	第18回	論文の執筆・フィールドワーク		
	第4回	各学生により研究テーマの選定・計画③	第19回	論文の執筆・フィールドワーク		
	第5回	文献・資料収集、観察①	第20回	論文の執筆・データ解析		
	第6回	文献・資料収集、観察②	第21回	論文の執筆・データ解析		
	第7回	文献・資料収集、観察③	第22回	論文の執筆・データ解析		
	第8回	先行研究の発表①	第23回	論文の執筆・データ解析		
	第9回	先行研究の発表②	第24回	論文の執筆・データ解析		
	第10回	先行研究の発表③	第25回	論文の修正①		
	第11回	研究内容の方向づけ①	第26回	論文の修正②		
	第12回	研究内容の方向づけ②	第27回	論文の修正③		
	第13回	論文執筆の説明	第28回	論文発表		
	第14回	論文内容の検討①	第29回	論文発表		
	第15回	論文内容の検討②	第30回	まとめ		
授業に対する予習・復習	予習： 配布資料および収集した論文等は次回の授業までに予め目を通しておく。		復習：			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）					
教科書	※必要に応じて資料を配布する					
参考文献	※必要に応じて随時紹介する					
注意事項	保育者としての視点から、「食」や「健康」をはじめとした自然科学の分野においてテーマをもち、文献研究や観察研究をすすめ、論文としてまとめていく。演習生それぞれが自分の研究テーマに向かって積極的に取り組むことを期待する。先行論文や白書などを参考に情報を収集し、綿密な計画を立て、取り組んでほしい。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマとしては、臨床心理学に関連する「母子関係」「保育者のメンタルケア」「子育て支援」などを中心とする。</p>					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の興味に沿った研究テーマを見出す。 2. 保育に関する自分なりの視点を持つ。 3. 自分自身の考えを言語化できるようになる。 					
授業計画	第1回	講義の方針と年間計画	第16回	論文の執筆①		
	第2回	各学生によるテーマの選定①	第17回	論文の執筆②		
	第3回	各学生によるテーマの選定②	第18回	論文の執筆③		
	第4回	各学生によるテーマの選定③	第19回	論文の執筆④		
	第5回	文献の収集①	第20回	論文の執筆⑤		
	第6回	文献の収集②	第21回	論文の執筆⑥		
	第7回	文献の収集③	第22回	論文の執筆⑦		
	第8回	先行研究の発表①	第23回	論文の執筆⑧		
	第9回	先行研究の発表②	第24回	論文の執筆⑨		
	第10回	先行研究の発表③	第25回	論文の執筆⑩		
	第11回	先行研究の発表④	第26回	論文の修正①		
	第12回	先行研究の発表⑤	第27回	論文の修正②		
	第13回	論文執筆の説明	第28回	論文発表会		
	第14回	論文内容の検討①	第29回	論文発表会		
	第15回	論文内容の検討②	第30回	まとめ		
授業に対する予習・復習	予習： 学生生活の中で常に自身の興味があるテーマについて模索する。		復習： 授業中に受けた指導を元に次回の授業までに必ず研究を進める。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（30%）、授業態度（70%）</p>					
教科書						
参考文献						
注意事項	授業中の作業は卒業研究を行うための補助的なものであり、授業以外の時間帯に研究をおこなうこと。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）	単位数	2	担当教員	大輪 公孝
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。				
到達目標	学生諸氏が下記の内容を修得出来るようにする。 1) 論文口調で文章を書くこと。 2) 要約・縮約の技術を身につける。 3) 論文の書式（文献表等の書き方）を身につける。				
授業計画	第1回	オリエンテーション	第16回	中間報告	洋書文献・その他の書式
	第2回	音楽領域研究の方法1 洋楽	第17回	論文の推敲	1 論文口調は整っているか
	第3回	〃 2 日本音楽	第18回	〃	2 各題における全体の配分
	第4回	〃 3 その他の音楽	第19回	〃	3 要旨を的確に記述しているかどうか
	第5回	テーマの設定とグループ分け	第20回	最終報告	1 注釈・引用文・引用法
	第6回	テーマの決定	第21回	〃	2 参考文献の本文中の示し方
	第7回	テーマに関する図書研究 1 図書館の機能と検索法	第22回	〃	3 従来型の示し方
	第8回	〃 2 秋草学園図書館	第23回	〃	4 近年型の示し方
	第9回	〃 3 外部図書館	第24回	卒業論文指導	1 インターネット資料の表記
	第10回	資料検索と論文書式 1 資料検索法	第25回	〃	2 新聞記事の表記
	第11回	〃 2 検索資料の確認	第26回	〃	3 書名をどのように表記するか
	第12回	〃 3 参考引用資料の書式法	第27回	〃	4 引用文献一覧の作成
	第13回	中間報告 概要	第28回	〃	5 参考文献一覧の作成
	第14回	〃 文献について	第29回	卒業論文報告	
	第15回	〃 文献の書式	第30回	レジュメ発表	
授業に対する予習・復習	予習： 新聞の特に社説欄を熟読すること		復習： 社説の読後、その内容を要約・縮約する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（100%）				
教科書	毎時プリントを配布。				
参考文献	『日本語練習帳』（大野晋、岩波新書）				
注意事項	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。 論文完成までのマクロ的な計画を立てて進めること。				

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	土屋 由
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>主な研究テーマとしては、「保育内容」「子どもの生活・遊びや文化に関すること」「育児・家族に関すること」などである。保育所・幼稚園・家庭をフィールドとする質的研究および文献研究を行い、論文としてまとめる。</p>					
到達目標	<p>学生が自らの興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究の検討から問題の所在を明らかにし、インタビューや文献調査などの方法により、必要な資料収集および考察を進め、卒業論文をまとめる。</p>					
授業計画	第1回	講義の方針と年間計画	第16回	調査の実施に向けた準備		
	第2回	フィールドワークの方法①	第17回	調査の実施①		
	第3回	フィールドワークの方法②	第18回	調査の実施②		
	第4回	フィールドワークの方法③	第19回	結果の整理①		
	第5回	研究テーマの選定	第20回	結果の整理②		
	第6回	研究テーマについて必要な文献を集める①	第21回	考察を進める①		
	第7回	研究テーマについて必要な文献を集める②	第22回	考察を進める②		
	第8回	先行研究の検討①	第23回	考察を進める③		
	第9回	先行研究の検討②	第24回	結論および今後の課題の検討①		
	第10回	問題の所在を明らかにする①	第25回	結論および今後の課題の検討②		
	第11回	問題の所在を明らかにする②	第26回	研究のまとめ①		
	第12回	中間報告①	第27回	研究のまとめ②		
	第13回	中間報告②	第28回	論文発表①		
	第14回	子ども関連施設の見学①	第29回	論文発表②		
	第15回	子ども関連施設の見学②	第30回	まとめ		
授業に対する予習・復習	<p>予習： 研究テーマ設定のための下調べをすること、文献や資料に目を通すこと、課題をこなすことが必要である。</p>		<p>復習： 課題についての修正や論文の執筆作業を進めること。</p>			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）</p>					
教科書	特になし					
参考文献	<p>『大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康、講談社新書）</p> <p>『論文の教室』（戸田山和久、NHKブックス）</p>					
注意事項	研究テーマを明確にすること、必要な文献をしっかりと読みこなすことを期待したい。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	伊藤 明芳
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は、少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じて保育者として必要な専門的知識をさらに深める。</p> <p>研究テーマ； 1. 発達心理学など、子どもや保育・教育に関わる心理学全般 2. 「子育て支援」に関する分野 3. 「教育・保育相談」、「カウンセリング」などの分野</p>					
到達目標	卒業研究(卒業論文)の作成を通して、研究の方法を修得し、学生個々が選んだテーマに関する見識を深めること。					
授業計画	第1回	本ゼミの方針と年間計画	第16回	論文執筆①		
	第2回	論文作成についての概説	第17回	論文執筆②		
	第3回	各学生による研究テーマの選定①	第18回	論文執筆③		
	第4回	各学生による研究テーマの選定②	第19回	論文執筆④		
	第5回	各学生による研究テーマの選定③	第20回	論文執筆⑤		
	第6回	各学生による研究テーマの選定④	第21回	論文執筆⑥		
	第7回	文献・資料収集①	第22回	論文執筆⑦		
	第8回	文献・資料収集②	第23回	論文執筆⑧		
	第9回	文献・資料収集③	第24回	論文の修正①		
	第10回	卒論計画の発表①	第25回	論文の修正②		
	第11回	卒論計画の発表②	第26回	論文の修正③		
	第12回	卒論計画の発表③	第27回	論文の修正④		
	第13回	論文執筆の説明	第28回	論文発表会		
	第14回	論文内容の検討①	第29回	論文発表会		
	第15回	論文内容の検討②	第30回	まとめ		
授業に対する予習・復習	予習： 研究テーマを決定し、卒業研究作成スケジュール等を理解する。			復習： 卒業研究の作成。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（70%）、発表（30%）					
教科書	特に指定しない					
参考文献	随時紹介					
注意事項	論文提出の締め切りは12月中旬(予定)、論文提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	星野 治
授業の内容	<p>保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成します。</p> <p>講義は少人数によるゼミナール形式で行われます。</p> <p>論文提出後には、各ゼミナール単位での発表会が行われます。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> “保育・幼児教育の専門家”としての将来の自分自身を想定しながら、「災害サバイバルシミュレーション」を行います。 上記シミュレーションの結果に対する各自の見解を、卒業研究として整理します。 通年の研究活動を通して、主に防災の観点から、保育者として必要な専門的知識をさらに深められます。 					
授業計画	第1回	前期ガイダンス (演習の目的、進めかたなど)	第16回	後期ガイダンス (研究テーマの選びかた、レポートの書きかた)		
	第2回	既存資料の閲覧① (資料の検索・選択)	第17回	既存資料の閲覧⑬ (特定の視点からみた複数資料の検索・選択)		
	第3回	既存資料の閲覧② (資料の内容の読解)	第18回	既存資料の閲覧⑭ (複数資料の総合評価)		
	第4回	既存資料の閲覧③ (資料の内容に対する解釈考察)	第19回	既存資料の閲覧⑮ (複数資料の総合評価の文章化)		
	第5回	既存資料の閲覧④ (資料に関するレポートの作成)	第20回	既存資料の閲覧⑯ (複数資料の総合評価の発表)		
	第6回	既存資料の閲覧⑤ (資料に関するレポートの発表)	第21回	第17週～第20週のみまとめ (これまでの内容を総括・整理する)		
	第7回	既存資料の閲覧⑥ (資料に関するレポートの発表)	第22回	卒業研究① (研究テーマの決定)		
	第8回	第2回～第7回のみまとめ (これまでの内容を総括・整理する)	第23回	卒業研究② (研究方針の決定)		
	第9回	既存資料の閲覧⑦ (類似テーマを扱った複数資料の検索・選択)	第24回	卒業研究③ (研究内容の文章化ほか)		
	第10回	既存資料の閲覧⑧ (複数資料の内容の読解)	第25回	卒業研究④ (研究内容の中間発表)		
	第11回	既存資料の閲覧⑨ (複数資料の内容に対する解釈考察)	第26回	卒業研究⑤ (研究内容の文章化ほか)		
	第12回	既存資料の閲覧⑩ (複数資料に関するレポートの作成)	第27回	卒業研究⑥ (レポートの完成および提出)		
	第13回	既存資料の閲覧⑪ (複数資料に関するレポートの発表)	第28回	卒業研究⑦ (研究内容の発表)		
	第14回	既存資料の閲覧⑫ (複数資料に関するレポートの発表)	第29回	卒業研究⑧ (研究内容の最終修正)		
	第15回	第9週～第14週のみまとめ (これまでの内容を総括・整理する)	第30回	全体のみまとめ (通年の研究成果を整理する)		
授業に対する予習・復習	予習： 予習に必要な事項については、担当教員が指示します。			復習： 復習に必要な事項については、担当教員が指示します。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）</p>					
教科書	必要に応じて随時指定します。					
参考文献	必要に応じて随時紹介します。					
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 架空の災害の状況を具体的な事件（バーチャルリアリティ）として頭の中で想起するためには、“各種災害に関する基礎知識”や“豊かなイメージング能力”に加えて、“強い精神力”が必要です。 入手困難な資料類（他大学付属図書館が所蔵する学術文献、出版時期の古い一般向け雑誌、その他）が必要となった場合、早めに担当教員へ相談してください。 提出締め切り後に担当教員から卒業研究の修正を求められた場合、その修正作業に対する評価は「発表」に含まれます。 					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	越川 葉子
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から、学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。講義は少人数によるゼミナール形式で行われる。また、論文提出後には発表会が行われる。このことを通じ、保育者として必要な専門的知識をさらに深める。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文献講読により各自のテーマに応じた基礎的知識を主体的に学ぶことができる。 ・資料収集やフィールドワークを取り入れながら論文執筆に取り組むことができる。 ・「子どもをめぐる教育問題」「子どもの問題行動」「子ども観の変容」を中心としたテーマについて、自分なりの見解を説得的に論じることができるようになる。 					
授業計画	第1回	授業の進め方	第16回	論文の執筆		
	第2回	文献による基礎研究①	第17回	論文の執筆		
	第3回	文献による基礎研究②	第18回	論文の執筆		
	第4回	研究テーマの選定および問題関心の検討①	第19回	論文の執筆		
	第5回	研究テーマの選定および問題関心の検討②	第20回	論文の執筆		
	第6回	参考文献の探し方・資料収集の方法	第21回	論文の執筆		
	第7回	引用・注記の仕方・ネット情報の扱い方	第22回	論文の執筆		
	第8回	調査方法の選定	第23回	論文の執筆		
	第9回	先行研究の検討①	第24回	中間発表		
	第10回	先行研究の検討②	第25回	論文の修正		
	第11回	論文の構成①	第26回	論文の修正		
	第12回	論文の構成②	第27回	論文の修正		
	第13回	中間発表	第28回	論文発表		
	第14回	中間発表	第29回	論文発表		
	第15回	後期に向けた課題の確認	第30回	まとめ		
授業に対する予習・復習	予習： 参考文献を通読し、疑問点や質問点を事前にまとめておくこと。 参考文献に関連する書籍・論文を調べ、講義の中で紹介できるよう準備する。			復習： 受講生内での意見交換をもとに、各自のテーマに関連する意見や文献情報を記録していくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 論文（70%）、発表（20%）#提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う、授業態度（10%）					
教科書	特になし。					
参考文献	必要に応じて適宜、紹介する。					
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。 ・子どもとの関わりを通して疑問に思ったことや悩んだ経験について、日ごろから記録をとっておくことを期待する。受講生が実践経験から得た感覚は、卒業研究の問題関心を見つけるうえで、貴重なヒントになるはずである。 					

科目名	総合演習Ⅱ（卒業研究）		単位数	2	担当教員	秋山 展子
授業の内容	保育、幼児教育に関連する幅広い分野から学生が興味あるテーマを選択し、そのテーマを専門とする専任教員の指導により卒業論文を作成する。研究テーマとしては、「地域における健全育成」、「現代における子どもの居場所」等のキーワードを中心とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 論文の作成方法を学ぶ。 少人数のゼミナール形式で協調性を身につける 論文作成を通して、保育者として必要な専門的知識を深める。 					
授業計画	第1週	授業の進め方		第16週	研究論文の執筆①	
	第2週	文献、視聴覚教材による基礎研究①		第17週	研究論文の執筆②	
	第3週	文献、視聴覚教材による基礎研究②		第18週	研究論文の執筆③	
	第4週	テーマの設定①		第19週	研究論文の執筆④	
	第5週	テーマの設定②		第20週	研究論文の執筆⑤	
	第6週	文献、資料などの収集①		第21週	研究論文の執筆⑥	
	第7週	文献、資料などの収集②		第22週	研究論文の執筆⑦	
	第8週	文献、資料などの収集③		第23週	研究論文の執筆⑧	
	第9週	調査、研究の方法①		第24週	中間発表	
	第10週	調査、研究の方法②		第25週	論文の修正①	
	第11週	論文の執筆について		第26週	論文の修正②	
	第12週	中間発表①		第27週	論文の修正③	
	第13週	中間発表②		第28週	論文発表①	
	第14週	論文の検討①		第29週	論文発表②	
	第15週	論文の検討②		第30週	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習： 毎週提示される課題に沿って、研究を各自で進めてくること。			復習：		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>論文（70%）、発表（20%）、授業態度（10%）</p> <p>提出後、指導教員から修正を求められた場合は、その作業も発表に含み評価を行う。</p>					
教科書						
参考文献						
注意事項	自分の研究テーマを明確にし、積極的に取り組むことを期待する。					

科目名	地域活動Ⅰ	単位数	2	担当教員	越川 葉子
授業の内容	保育の専門家を目指して入学した1年次生が、本学科の理念の一つである「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、本学の所在地である所沢市を中心とする地域活動に参加することで、様々な人々と接し、保育者としての役割や地域の社会資源の重要性を理解する。活動後には、省察（振り返り）を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館、障害者関係施設、教育関係機関、行政等が実施する活動に年間を通じて参加することで、各種施設の特徴や地域とのつながりを理解することができる。 ・子どもや障害児者、また彼らを取り巻く地域の社会資源への理解を深めることができる。 ・子どもや障害児者、保護者への接し方を身につけることができる。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション	第16回	後期講義の進め方について	
	第2回	地域活動の進め方①	第17回	地域活動に関する諸連絡と注意事項①	
	第3回	地域活動の進め方②	第18回	地域活動に関する諸連絡と注意事項②	
	第4回	地域活動の進め方③	第19回	地域活動に関する諸連絡と注意事項③	
	第5回	地域活動の進め方④	第20回	地域活動に関する諸連絡と注意事項④	
	第6回	活動参加者からの報告①	第21回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑤	
	第7回	活動参加者からの報告②	第22回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑥	
	第8回	活動参加者からの報告③	第23回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑦	
	第9回	活動参加者からの報告④	第24回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑧	
	第10回	活動参加者からの報告⑤	第25回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑨	
	第11回	活動参加者からの報告⑥	第26回	冬休み中の地域活動の進め方	
	第12回	夏休み中の地域活動の進め方①	第27回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑩	
	第13回	夏休み中の地域活動の進め方②	第28回	地域活動に関する諸連絡と注意事項⑪	
	第14回	夏休み中の地域活動の進め方③	第29回	報告書の作成	
	第15回	まとめ	第30回	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習： 活動先の歴史や特色をHPで確認しておくこと。 活動先までの交通アクセスを調べ、自宅からの経路を把握しておくこと。 当日の持ち物・活動内容を確認すること。		復習： 具体的な活動内容や活動で得たことがらをレポートにまとめること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、課題（20%）、授業態度（40%）				
教科書	特になし。				
参考文献	適宜紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は卒業要件である。 ・活動は、土・日・祝日と長期休暇中に行う。 ・指定回数の活動への参加と、活動の振り返りのためのレポート提出が求められる。 ・「駅ボランティア体験会」（11月初旬に本学で実施）への参加を必修とする。 				

科目名	地域活動Ⅱ	単位数	2	担当教員	伊藤明芳・星野治
授業の内容	「地域活動Ⅱ」は「地域活動Ⅰ」での学びと実践を基礎にして第2年次を行う。具体的には、受講生自らが居住地域に活動場所を選定し、活動の依頼を行い、定まった場所(一か所)にて継続して活動を行うことを中心とする。そして、活動で得た記録、反省、気づき等をレポートに丁寧にまとめ、さらに、報告とディスカッションを通じて受講生同士で共有を図り、活動で得たものをより豊かにして全員の糧となるようにする。				
到達目標	<p>「地域のニーズにあった支援をする」保育者を目指し、ⅠとⅡ共通のねらいである。</p> <p>①地域の子育ての実態を理解する。</p> <p>②地域の子育てのニーズを学ぶ、をより深く実習し、課題を発見し考察を行える力の養成を目標とする。</p>				
授業計画	第1回	イントロダクション(導入)	第16回	事前指導⑤(基本マナーや課題の見直し等)	
	第2回	事前指導①(活動場所の選定等)	第17回	事前指導⑥(基本マナーや課題の見直し等)	
	第3回	事前指導②(活動場所の選定等)	第18回	地域活動⑥(受講生の居住地域にて)	
	第4回	事前指導③(マナーや課題の設定等)	第19回	地域活動⑦(受講生の居住地域にて)	
	第5回	事前指導④(マナーや課題の設定等)	第20回	地域活動⑧(受講生の居住地域にて)	
	第6回	地域活動①(受講生の居住地域にて)	第21回	地域活動⑨(受講生の居住地域にて)	
	第7回	地域活動②(受講生の居住地域にて)	第22回	地域活動⑩(受講生の居住地域にて)	
	第8回	地域活動③(受講生の居住地域にて)	第23回	事後指導⑤	
	第9回	地域活動④(受講生の居住地域にて)	第24回	事後指導⑥	
	第10回	地域活動⑤(受講生の居住地域にて)	第25回	事後指導⑦(振り返りとディスカッション等)	
	第11回	事後指導①	第26回	事後指導⑧(振り返りとディスカッション等)	
	第12回	事後指導③(振り返りとディスカッション等)	第27回	事後指導⑨(振り返りとディスカッション等)	
	第13回	事後指導③(振り返りとディスカッション等)	第28回	事後指導⑩(一年生との合同検討会等)	
	第14回	事後指導④(振り返りとディスカッション等)	第29回	事後指導⑪(一年生との合同検討会等)	
	第15回	前期のまとめと後期の学びへの助言	第30回	一年間の総合的まとめと今後の学びへの助言	
授業に対する予習・復習	予習： 活動場所に選定と依頼等を丁寧におこない活動に臨む。		復習： 活動で得た学び等をまとめる。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施()する/ (○)しない</p> <p>レポート(40%)、課題(60%)</p> <p>※課題とは地域活動参加回数や態度である。</p>				
教科書	特に指定しない				
参考文献	講義の際に随時紹介する				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目(実習)は卒業要件である。 ・活動場所は主に受講生それぞれの居住地域の施設、学校、行政等が実施する活動を受講生自ら選定し、依頼を行い、活動に参加する。 ・活動は、土日祝日と長期休暇中に行う。できるだけ一か所の場所で継続して複数回の活動を行う。 				

科目名	保育原理Ⅱ	単位数	2	担当教員	土屋 由
授業の内容	保育原理Ⅰでの学びを踏まえ、以下の内容を中心に学ぶ。 ① 保育者の専門性として子ども・保護者・保育者同士のかかわりの中で求められるもの ② 乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応 ③ 保育所や幼稚園、認可外保育施設の現状や課題 ④ 子ども、保護者を取り巻く課題				
到達目標	・保育者の専門性として、子ども・保護者・保育者同士のかかわりの中で求められるものを理解する。 ・乳児保育や延長・夜間保育、特別な配慮を必要とする子どもへの対応を理解する。 ・保育所や幼稚園、認定こども園、地域型保育といった保育の場について、現状や課題を理解する。				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	保育者の専門性①子どもとのかかわりの中で求められるもの			
	第3回	保育者の専門性②保護者とのかかわりの中で求められるもの			
	第4回	保育者の専門性③保育者同士のかかわりの中で求められるもの、保育者の成長と研修			
	第5回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応①健康と安全に関する留意事項			
	第6回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応②乳児保育への対応			
	第7回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応③延長・夜間におよぶ子どもの保育			
	第8回	健康・安全と多様な子どもの保育への対応④特別な配慮を必要とする子どもと保護者への対応			
	第9回	保育の現状と課題①保育所の現状			
	第10回	保育の現状と課題②幼稚園の現状			
	第11回	保育の現状と課題③認可外保育施設の現状			
	第12回	保育の現状と課題④保育の質と評価			
	第13回	保育の現状と課題⑤認定こども園の設立と今後の展望			
	第14回	保育の現状と課題⑥子ども・保護者を取り巻く課題			
	第15回	まとめ、保育研究の視点			
授業に対する予習・復習	予習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。	復習：	授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、レポート（20%）、課題（10%）				
教科書	『よくわかる保育原理』（森上史朗・大豆生田啓友、ミネルヴァ書房）				
参考文献	参考文献は、授業において紹介する。				
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。				

科目名	保育の心理学	単位数	1	担当教員	伊藤 明芳
授業の内容	<p>本講義では、講義「発達心理学」の内容を踏まえて、発達心理学と教育心理学等の基礎的知識の拡充と現場で生きる実践的能力の応用を図ることを目的とする。</p> <p>保育方法の工夫への手立て、家庭や保護者との関わり、保育者自身の心の安定と成長等にもアプローチしたいと考えている。</p>				
到達目標	<p>①発達心理学、教育心理学等の基本および発展的知識を正確に習得する。</p> <p>②学んだ知識を活用して、実際の保育現場の子どもの心の発達等について考えられる力を身につける。</p> <p>③子どもや大人の心の発達理解と子育て支援にどのように活かせるのかを考え、実践できるようになる。</p>				
授業計画	第1回	イントロダクション			
	第2回	保育の心理学の基礎① [発達理論の復習]			
	第3回	保育の心理学の基礎② [発達理論の応用]			
	第4回	保育の心理学の基礎③ [教育心理学理論等の復習]			
	第5回	保育の心理学の基礎④ [教育心理学理論等の応用]			
	第6回	知的機能			
	第7回	情緒			
	第8回	社会性			
	第9回	発達障害① [発達障害とは何か]			
	第10回	発達障害② [発達障害の種類]			
	第11回	発達障害③ [発達障害への対応]			
	第12回	子どもの発達への関わりと保育方法の工夫			
	第13回	家庭、保護者、他機関等との連携			
	第14回	保育者自身の心の健康			
	第15回	まとめと今後へのアドバイス			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 毎回、学んだ知識を正確に習得できるようにすること。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない</p> <p>筆記試験 (60%)、レポート (40%)</p>				
教科書	特に指定しない				
参考文献	<p>『発達心理学』(越智幸一 編、大学図書出版、2015)</p> <p>他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介する</p>				
注意事項	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、事例研究やビデオ視聴等で理解を深め、それを保育の実践に活かすことを考える。</p> <p>受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>				

科目名	子どもの保健Ⅱ	単位数	1	担当教員	山口 さとみ
授業の内容	保育において子どもの健康と安全を守り支援していくことは大切な役割である。身体的な発育や運動機能や精神機能の発達がめざましく成長する過程において、保育者としての保健活動や保護者への支援のための知識を学ぶ。さらに、健康上の配慮を必要とする子どもへの対応や事故・救急時の対応について学ぶ				
到達目標	1) 保健活動に必要な知識を理解できる 2) 演習を通して保育者に必要な実践能力を身につける 3) 体調不良や個別的な配慮を必要とする子どもへの対応、また、救急時の対応について理解できる				
授業計画	第1回	オリエンテーション 演習についての注意事項 子どもの発育・発達の観察と評価① (発育・発達)			
	第2回	子どもの発育・発達の観察と評価② (身体計測演習)			
	第3回	子どもの健康観察と健康管理 (バイタルサインの測定 評価方法)			
	第4回	子どもの養護と教育① (抱っこ おんぶ 排泄)			
	第5回	子どもの養護と教育② (清潔)			
	第6回	子どもの養護と教育③ (沐浴・衣類の着脱・おむつ交換演習)			
	第7回	子どもの養護と教育④ (栄養)			
	第8回	子どもの生活習慣 (睡眠 生活リズムの形成)			
	第9回	体調不良の子どもへの対応① (発熱 下痢 嘔吐 咳 発疹 腹痛)			
	第10回	体調不良の子どもへの対応② (けいれん 脱水 頭痛 鼻汁・鼻閉など)			
	第11回	体調不良の子どもへの対応③ (感染性疾患 など 園における薬の取り扱い)			
	第12回	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 (アレルギー疾患 喘息 アトピー性皮膚炎など)			
	第13回	子どもの心と体の健康づくりのために (保健活動計画 演習)			
	第14回	望ましい保育環境と安全対策 (衛生管理 安全管理)			
	第15回	保育における応急手当 (出血 やけど 骨折など)			
授業に対する予習・復習	予習： 授業計画を参考に教科書で内容を確認する		復習： 授業・演習で習得した知識を確認する		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 (○) する / () しない 筆記試験 (50%)、課題 (25%)、実技 (10%)、授業態度 (15%)				
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』(鈴木美枝子 編著、創成社)				
参考文献	必要時資料配布				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具、掲示された教材は忘れずに持参すること ・グループ演習は、メンバー同士協力し全員が積極的に演習に取り組むこと ・授業中の私語、飲食、携帯電話は禁止 				

科目名	子どもの食と栄養		単位数	2	担当教員	橋本 洋子
授業の内容	<p>私たちは「食べる」ことでからだに必要な栄養を摂取し、また適切な食生活によって健康を維持している。乳・幼児期の食生活は心身の発育・発達に大きく影響し、幼児期に身についた食生活はその子どもの一生の食習慣を左右する大切なものとなる。食事は単に栄養素を摂取するだけではなく、心身の順調な発育、発達を促し健康な生活を営むための基礎となることを理解し、保育者として必要な食・栄養の知識を身につける。この授業を通して自身の適切な食生活も考えて欲しい。</p>					
到達目標	<p>①健康な食生活を営むために必要な栄養の知識と体の仕組みを理解し、適切な食生活をおくることができる ②子どもの心身の発達段階にふさわしい栄養と食生活を理解し、子どもがよく噛んで美味しく味わうための環境づくりに取り組める ③子どもを取り巻く食の様々な問題点から、食教育の重要性を理解し、実践力を身につける</p>					
授業計画	第1回	子どもの健康と食生活 健康・栄養とは	第16回	児童福祉施設における食事と栄養		
	第2回	子どもを取り巻く食環境① 子どもの心身の健康と食生活	第17回	配慮が必要な子どもの食と栄養① 疾病・体調不良など		
	第3回	子どもを取り巻く食環境② 子どもの食生活の現状と課題、食品の安全性	第18回	配慮が必要な子どもの食と栄養② アレルギー		
	第4回	からだと栄養① からだのはたらきと栄養、栄養素の基礎知識	第19回	配慮が必要な子どもの食と栄養③ 障がいのある子どもへの対応		
	第5回	からだと栄養② 食べ物のゆくえ～消化・吸収のいとなみ～(ビデオ)	第20回	子どもを取り巻く食環境③ いま子どもに必要な食環境を考える		
	第6回	からだと栄養③ からだのはたらきと栄養 まとめ・小テスト	第21回	献立作成：食品の選び方、栄養バランス		
	第7回	からだと栄養④ 食事摂取基準と献立作成・調理の基本	第22回	食育① 食育の基本と内容：食育基本法、食育計画		
	第8回	子どもの発育・発達と食生活① 妊娠、胎児期の栄養	第23回	食育② 保育者としての食育を考える：実践例から学ぶ		
	第9回	子どもの発育・発達と食生活② 乳児期：乳汁栄養（母乳、人工栄養）、排泄	第24回	食育③ 食育計画の立案		
	第10回	子どもの発育・発達と食生活③ 乳児期：哺乳動作の発達（ビデオ）	第25回	子どもの栄養と食生活 まとめ・小テスト		
	第11回	子どもの発育・発達と食生活④ 離乳の意義と進め方	第26回	食育演習① 食育媒体とは：食育計画と媒体制作		
	第12回	子どもの発育・発達と食生活⑤ 摂食機能の発達 まとめ	第27回	食育演習② 媒体製作		
	第13回	子どもの発育・発達と食生活⑥ 幼児期の特徴と食生活	第28回	食育演習③ 媒体制作		
	第14回	子どもの発育・発達と食生活⑦ 学童期の特徴と食生活	第29回	食育媒体発表①		
	第15回	子どもの発育・発達と食生活⑧ まとめ・小テスト	第30回	食育媒体発表②		
授業に対する予習・復習	予習： シラバスおよび授業内での指示にしたがい、事前にテキストに目を通しておく。		復習：			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（70%）、課題・発表（20%）、授業態度（10%）</p>					
教科書	『子どもの食と栄養 - 演習 - 』（岡崎光子編、同文書院）					
参考文献	『子どもの食と栄養塩演習書』（小川雄二編、医歯薬出版株式会社）他、授業内で随時紹介する					
注意事項	<p>テキストを中心にビデオ・配布資料等の教材を使用した講義が中心となるが、献立作成、食育媒体制作等も含む演習科目である。授業での指示にそって事前学習が必要となる。自身の食生活・健康も振り返り、保育者として求められている食教育に積極的に取り組み、課題作成・発表を通して今求められている食指導の大切さを考えて欲しい。試験は授業内にて実施する。</p>					

科目名	子どものための食育実習	単位数	1	担当教員	橋本 洋子
授業の内容	<p>子どもは、乳・幼児期の短期間にめざましい摂食機能の発達を遂げる。この食育実習では、1年次の「子どもの食と栄養」で学んだ知識をもとに、子どもの発達過程に応じた食事を実際に調理し試食することにより咀嚼機能の発達を理解し、乳幼児に関わる専門職としての適切な食指導・食支援の方法を学ぶ。基本的な調理の知識・技術を習得する。</p>				
到達目標	<p>①準備（計る・洗うなど）から片付けにいたる調理に必要な知識、技術を身につける ②たんに「空腹を満たす食事」ではない、子どもの月齢と咀嚼機能に合った食品の選択、調理方法（適切な量・調理形態）を理解し実践できる ③「美味しく」「楽しい」かつ「安全な」食事を提供するための環境整備ができる</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーション：調理室の使い方、調理の基本、おやつ			
	第2回	調乳・赤ちゃん人形			
	第3回	離乳食（準備食・5～6か月）			
	第4回	離乳食（7～8か月）、間食			
	第5回	離乳食（9～11か月）			
	第6回	離乳食（12～18か月）			
	第7回	幼児の食事（1～2才、3～5才）			
	第8回	幼児のおべんとう			
	第9回	妊産婦の食事			
	第10回	幼児の間食：食物アレルギーを考える			
	第11回	行事食			
	第12回	食育を考える			
	第13回	まとめ、レポート提出（第13週で終了）			
	第14回				
	第15回				
授業に対する予習・復習	予習： 毎実習前にオリエンテーション時の配布資料、前実習内容に目を通しておく。		復習： レポート作成により、実習内容の理解を深めておく。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（60%）、実技（20%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	実習前に資料を配布する				
参考文献	授業内にて随時紹介する				
注意事項	<p>毎回2時限連続で行う。デモンストレーション・説明の後、4～5人のグループに分かれて実習を行う。必要に応じてビデオ等の教材も使用する。毎実習毎に試食しながら各自でレポートを作成し、子どもの食事のあり方について考察する。レポートは最後にまとめて提出する。グループ毎の実習となり欠席は他の学生に迷惑をかける。授業中の私語は円滑な実習のために禁止する。エプロン、三角巾を着用すること。調理、試食後にまとめるレポートは、子どもの発達をふまえて考察すること。</p>				

科目名	社会的養護	単位数	2	担当教員	萬燈 章雄
授業の内容	社会的養護を必要としている子どもたちへの理解を深める。また、社会的養護の支援フレームについて学習するとともに、特有の課題及び特性についても理解する。そこで生活する子どもたちが本来もつ権利を守りながら、保育士としてどのように関わっていくのかを学習する。				
到達目標	1 社会的養護を必要としている子どもたちの現状を理解する。 2 社会的養護の支援フレームについて理解する。 3 支援者としての保育士の職務と倫理について理解する				
授業計画	第1回	オリエンテーション～「社会的養護」とは社会的養護に携わる保育士としての基本的スタンスについて学ぶ			
	第2回	子ども観と社会的養護の歴史 子どもが歴史的にどのように扱われてきたか			
	第3回	社会的養護の仕組み また、現在の社会的養護の抱える課題について			
	第4回	児童相談所の役割について 児童相談の実際と措置制度について			
	第5回	児童虐待と社会的養護 虐待を受けてきた子供たちについて理解する			
	第6回	児童福祉施設の種類と専門職 適切な施設の選択、配置すべき専門職などを学ぶ			
	第7回	里親制度・養子縁組について なぜ今里親委託推進なのかを理解する			
	第8回	社会的養護理論① レジデンシャルソーシャルワーク、パーマネンシープランニングなど理解する			
	第9回	社会的養護理論② アタッチメント理論「子どもの安全基地」を学ぶ			
	第10回	家族再統合と施設からの自立支援に向けて 家族支援プログラム・スタートダッシュ応援事業・希望の家事業など			
	第11回	児童福祉施設での基本技術 アセスメント（ジェノグラム・エコマップ）と記録の書き方について			
	第12回	児童の権利擁護について（子どもの権利ノート） 子どもの生い立ちの整理を支援する			
	第13回	演習Ⅰ 事例を使って絵と言葉で生い立ちを説明する（W&P）			
	第14回	演習Ⅱ（被措置児童虐待について） 事例を使って保育士としての倫理観を考える			
	第15回	これからの社会的養護 厚生労働省通知「家庭的養護の推進について」			
授業に対する予習・復習	予習： 事前に資料配布した場合は、課題に沿ってよく読んでおくこと。		復習： 配布した資料を読み返すとともに、メモなども含め管理を徹底すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50％）、発表（20％）、授業態度（30％）				
教科書	『よくわかる社会的養護 第2版』（山縣文治、林浩康編、ミネルヴァ書房） その他、必要に応じプリントを配布します。				
参考文献	必要に応じ適宜紹介します。				
注意事項	どの現場においても個人情報の管理は極めて重要なファクターになります。個人情報が漏れれば少なからず処分の対象になります。そのことを踏まえ、配布する事例（実際の事例ではありません）及び資料また授業中のメモなど、その管理について日頃から常に意識し自己管理を徹底してください。 受講マナーは守り、積極的な参加を期待します。				

科目名	相談援助	単位数	1	担当教員	為石 摩利夫
授業の内容	家庭の抱える問題は多様化しており、その背景も含めて理解することが相談者を受け止め、信頼関係を構築することにつながっていく。また、問題が複雑に絡み合っている場合には、専門機関との連携した取り組みも必要である。相談援助の実践において信頼される援助者となるための知識・技術を学ぶ				
到達目標	保育現場における相談援助機能について学び、その必要性と事例を通じて対象者の理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助の必要性について理解する ・相談援助の対象者の理解と受け止め、専門機関との連携の必要性を理解する ・アセスメントの重要性と計画の見直しの必要性を理解する 				
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方と評価について			
	第2回	相談援助の理論と意義 相談援助の理論の発展過程や意義について学ぶ			
	第3回	相談援助の機能 相談援助に求められる機能について学ぶ			
	第4回	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークの定義			
	第5回	保育とソーシャルワーク 保育士としての相談支援について理解する			
	第6回	相談援助の対象 児童・保護者・地域との関わり方を理解する			
	第7回	相談援助のプロセスⅠ 相談援助の進め方			
	第8回	相談援助のプロセスⅡ 相談援助の基本的技術			
	第9回	相談援助のプロセスⅢ 計画・記録、評価、見直し			
	第10回	相談援助の関係機関 関係機関との協働について理解する			
	第11回	多様な専門職との連携 連携の意義について理解する			
	第12回	グループワークⅠ 事例分析（社会資源との連携）			
	第13回	グループワークⅡ 事例分析（虐待の予防と対応）			
	第14回	グループワークⅢ 事例分析（障害のある子）			
	第15回	相談援助のまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 事前に教科書の内容を確認する。		復習： 疑問点を明確にし、基本原則とその応用について考察する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（70%）、授業態度（30%）				
教科書	基本保育シリーズ⑤『相談援助』（松原康雄・村田典子・南野奈津子編集、中央法規出版）				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				
注意事項					

科目名	家庭支援論	単位数	2	担当教員	北澤 明子
授業の内容	<p>家族、家庭のあり方が変化し、多様化した現在、保育者は家庭や地域と連携しながら、子育てを支援していくことが求められている。本講では、子育てにおける「家庭支援」の背景や目的、方法について学ぶとともに家族、家庭のあり方や保育者として必要な家庭支援について考えていく。</p>				
到達目標	<p>① 家族の意義とその機能について説明することができる。 ② 現在の子育て家庭を取り巻く環境について説明することができる。 ③ 子育て支援の法的根拠や支援政策について説明することができる。 ④ 子育て支援の実際について学び、説明することができる。</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーションー授業の進め方・参考文献の紹介等ー			
	第2回	家庭の意義と機能			
	第3回	家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷についてー国や文化による違いー			
	第4回	家族・家庭・子育ての歴史や文化・変遷についてー我が国の家族や子育ての歴史ー			
	第5回	現在の家庭を取り巻く状況①ー図や表を読み取るー			
	第6回	現在の家庭を取り巻く状況②ー読み取りから考えるー			
	第7回	子育て家庭支援の必要性			
	第8回	現在の子どもを取り巻く状況			
	第9回	子育て支援の法的根拠			
	第10回	我が国の子育て支援・政策			
	第11回	子育て支援の実際①ー保育所・幼稚園における子育て支援の取組ー			
	第12回	子育て支援の実際②ー地域における子育て支援の取組ー			
	第13回	子育て支援の実際③ー民間機関による支援の取組 他ー			
	第14回	保育の場における具体的な事例紹介			
	第15回	まとめー子どもを産むこと・育てるということについて考えるー			
授業に対する予習・復習	予習： 出された課題は授業の予習・復習をかねるの で真摯に取り組んでください。	復習： 授業で配布された資料を整理し、前回の 授業内容を復習すること。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（80%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	適宜必要な資料を配布します。				
参考文献	<p>『子ども・子育て白書』（内閣府） 『子どもを知る 家庭支援論【新版】』（小田豊 他編、北大路書房）</p>				
注意事項	<p>・配布された資料はファイリングして（A4ファイルは各自用意すること。）毎回授業に持参してください。 前の授業で配布したのものを使う場合もあるため忘れることのないようにしてください。</p>				

科目名	保育内容総論	単位数	1	担当教員	石河 信雅
授業の内容	保育内容は「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」そして「養護」の領域があり、専門的にはそれぞれの領域を別々に学んでいる。しかし、保育実践（教育）の場面ではそれらが当然のごとく、遊びや・生活の中で一体的に進められるのである。ですから、保育内容総論は実際の保育場面で、各領域が統合して行われる実際を理解し、保育実践にいかにか臨むかを事例に基づきながら学んでいく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育所・幼稚園（幼保連携型認定こども園）に関する基本的事項を理解する。 2 子どもの発達と保育内容との関連について理解する。 3 各領域と保育内容について理解し、実際の保育場面での在り方を理解する。 4 保育の実際を総合的に理解し、今後の学びへの目標設定を再度見直す。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション：保育内容総論の学びの意義を理解する。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自意欲化を図る。幼稚園・保育園の概要を知る。			
	第2回	幼稚園教育要領・保育園教育指針（幼保連携型認定こども園保育要領）に基づく基本的な内容「5領域や養護」などについて概観し、「論」と「実践」の在り方を考察する。			
	第3回	保育の実際・遊びを中心とした生活。実際の保育場面を想定し、環境構成の重要性と遊びを通して子供は成長し様々な学びをすることを学ぶ。			
	第4回	発達と保育内容。子どもの発達と保育内容との関連性を実践例を通して学ぶ。そのことにより、子どもの発達を認識し実践の場面でどのように活用するかを理解し、認識しておくことの重要性を理解する。			
	第5回	年齢相当の保育2・3歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する。			
	第6回	年齢相当の保育4・5歳児。各年齢の成長・発達を確認し発達にあった保育内容についてこれまでの学びを統合して考え、理解する			
	第7回	環境と保育について学ぶ。保育は環境をとおして行うことが基本となることを理解し、環境構成の重要性を実際の例を通して学び、理解する。			
	第8回	絵本と保育。保育場面での紙芝居や絵本の読み聞かせ・素話の方法などを体験することにより、その在り方を学び保育場面での活かし方を考察する。			
	第9回	望ましい保育者像。保育や保育者の質について考察し、どのような保育者を目指すかを考えていく。その際、共同的な学びを行い学生同士が他のものの考え方などを知り、お互いの学びを深める。			
	第10回	保育をめぐる最近の動向。特に少子化や地域社会の在り方の変容など子どもが育つ環境は大きく変貌し、今後も社会環境の変化は続いていく。そのような変化の動向を知る方法や変化への対応について考察する。			
	第11回	多様な保育ニーズ・特に、気になる子の保育について学ぶ。近年幼児の社会も様々な外的要因から幼児の育ちに大きな影響が見受けられる。気になる子への保育の在り方を実践例をとおして学ぶ。			
	第12回	保幼小の連携について学ぶ。近年、小1プロブレムなどの課題が見受けられる。子どもたちは育ちの環境の変化に大きな戸惑いを見せている。子どもの育ちの環境や育ちの連続性について再考し、保幼小の連携について考察を深めていく。			
	第13回	保護者支援・地域との連携について学ぶ。核家族化などにより保護者の子育てへの支援が非常に重要になっている。支援の方法について事例をとおして学ぶ。また、地域社会との連携の在り方について事例をとおして学ぶ。			
	第14回	これからの保育に求められるもの。未来を生きる子どもたちを想像し、いまどのような保育を行うことが必要なのかをこれまでの学びから考察し、保育の在り方を探求する。			
	第15回	まとめ・学び続ける保育者へ・保育環境は常に流動している。保育者はその流動性を感知し、常に学び、その学びを保育に活かしていかなければならない。今何をなすべきかを考え、行動できる保育者となれるよう自分自身を見直す。			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 講義内容について再度見直し自身で身に付けるようにする。また、関連内容について様々な方法を駆使して学びを深めるようにすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、レポート（30%）、授業態度（20%）				
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』＜原本＞ （内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社）				
参考文献	講義の中で随時提示する。				
注意事項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。特にチャイルド本社のものである必要はない。				

科目名	保育内容(健康)	単位数	1	担当教員	石河 信雅
授業の内容	<p>幼児期は生涯にわたる学びの基礎を培う重要な時期である。この重要な時期である乳幼児が「健康な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出そうとする力を養う」ために、乳幼児の発育発達の状態に対する援助の基本や保育者としての在り方などの基礎を学ぶことを目的とする。</p>				
到達目標	<p>1 子どもの健全な心身の発達のために「遊び」は重要な要素を担っていることを理解する。 2 子どもの食生活や基本的な生活習慣の各年齢に合わせた発達過程を理解する。 3 子どもの健康及び安全の確保について保育の実態から学び理解する。</p>				
授業計画	第1回	オリエンテーション。保育にとって、保育内容・健康若しくは健康の領域の重要性について理解する。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自の意欲化を図る。			
	第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参考として、健康の領域で何を学ぶべきかを概観する。			
	第3回	子どもの身体と発達。子どもの身体の発達過程を学び理解する。乳幼児期は、発達において後戻りすることのできない重要な時期である、その重要な時期の保育を担うことの重要性を理解する。			
	第4回	子どもと遊び。子どもの遊びは、人格形成や脳の機能さらに人間関係作りそして健康な身体を形成するうえで非常に重要である。特に幼児期における遊び方について、実践をとおして学ぶ。			
	第5回	子どもの遊び。子どもの遊びと開放感について実践をとおして学び、今後の学びに結び付け家庭でも体を動かすことの重要性を実感し遊びの重要性を理解する。			
	第6回	遊びのお便りの作成。幼児期に遊びで形成される心身の形成、人間関係作り、脳の発達などを保護者にわかりやすく伝えるお便りを作成する。その中で、自分自身の学びを振り返り、学びの深淺を理解する。			
	第7回	子どもの遊びとコミュニケーション能力について。子どもの遊びは、その後のコミュニケーション能力の発達に欠かせない重要な面を持っている。コミュニケーションの在り方や遊びの中での育ちについて理解する。			
	第8回	子どもの食事について。乳幼児と食は非常に重要なテーマ(食育等)である。「子どもの貧困」が叫ばれる昨今、子どもの食生活に目を向けることは子どもの心身の健康保持にとって重要であることを理解する。			
	第9回	子どもの健康観察について。保育実践の中で、朝の子どもとの出会いは、子どもの心身の状態を観察するのに非常に重要な時間である。子どもの健康観察の方法そして、それを保育にいかにかに生かすか等を事例をとおして学び理解する。			
	第10回	子どもの基本的な生活習慣について。子どもの基本的な生活習慣は、年齢相応に発達をしていく。(個人差があることも含めて)基本的な発達の段階を学び、発達について理解する。			
	第11回	児童虐待等について。子どもの心身の健康状態の把握において、児童虐待の疑いも併せて観察する必要がある。不適切な養育・虐待等は早期に発見し適切な対応をとることが重要であることを事例をとおして学び理解する。			
	第12回	安全への配慮と事故防止について。園児を保育する場合の基本として安心・安全な環境を整えることがある。園の瑕疵による事故はあってはならない。そのための、安全のあり方や保育者の目線等について理解する。			
	第13回	疾病及び衛生管理について。子どもたちは園では集団での生活になる。集団での生活では、様々な疾病への対応やけがの防止等配慮しなければならない事項が出てくる。その配慮事項や配慮についての留意点を理解する。			
	第14回	家庭との連携について。健康で安全な子どもの生活を見守るためには、家庭との連携は不可欠である。常に密接な連携を心がけるような取組の在り方を事例を通して学び理解する。			
	第15回	まとめ。子どもの健康は、生活の基盤であり、将来への投資にもなる。子どもたちが心身ともに健康な生活が送れるよう保育することが重要である。これまでの学びから、保育者を目指す学生がこれからどのような学びが必要かを理解する。			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 講義内容について再度見直し自分自身で身に付けるようにする。また、学びを広げることも重要である。自身の学びを深めるようにしたい。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 筆記試験(50%)、レポート(30%)、授業態度(20%)</p>				
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』<原本>(内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社)				
参考文献	講義の中で随時提示する。				
注意事項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。特にチャイルド本社の物である必要はない。				

科目名	保育内容(人間関係)	単位数	1	担当教員	土屋 由
授業の内容	<p>保育所保育指針や幼稚園教育要領の領域の一つに、人とかかわりに関する領域「人間関係」が設けられている。講義では、以下の内容を中心に学ぶ。</p> <p>① 領域「人間関係」に関連する社会学や発達心理学などの理論をベースとした基礎知識</p> <p>② 乳児期、3歳児、4歳児、5歳児とそれぞれの発達過程において、どのように人とかかわりが育つのか</p> <p>③ 保護者対応や保育者同士の連携も含めた保育者の果たす役割</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」を理解するのに必要な基礎知識を身につける。 ・人と人とのところが深いところで結びつき、豊かなかかわりがもてるような集団の育ちがめざされる必要があることや、一人一人が十分に生かされる集団であることの大切さといった「人間関係」を捉えるのに必要な視点をもつ。 ・保育者対応や保育者同士の連携も含めた保育者の役割を理解する。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	自己理解と自己概念 「自分を知る」ところからはじめよう			
	第3回	社会・文化に生きる子ども			
	第4回	領域「人間関係」がめざすもの			
	第5回	領域「人間関係」の基礎知識			
	第6回	0・1・2歳児 乳児の保育における人とかかわり			
	第7回	3歳児 保育者が居場所 ものを「欲張る」ことにも意味がある			
	第8回	4歳児 自己主張と自己抑制 幼児期のなかよしとは？			
	第9回	5歳児 園生活の充実感を支えるもの			
	第10回	かけがえのない一人一人の存在			
	第11回	保護者とかかわり			
	第12回	保育者同士のかわり			
	第13回	かわりの育ちを「みる」			
	第14回	親しい人との体験が原動力になる			
	第15回	授業のまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 次回の授業の範囲について、教科書に目を通すこと。		復習： 授業で扱った内容について、教科書や配布プリントに記載されている情報についても、ノートに整理して記入しておくこと。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（70%）、レポート（20%）、課題（10%）</p>				
教科書	『保育内容 人間関係』（酒井幸子他著、萌文書林）				
参考文献	授業において紹介する。				
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞くこと、また自分自身の体験とつなげて考えることで、学びを深めてほしい。				

科目名	保育内容(環境)	単位数	1	担当教員	北澤 明子
授業の内容	本講では、様々な環境(人・物・自然・社会の事象など)とかわる子どもの実際の姿から、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の基本的な考え方について学ぶ。また、子どもが環境と主体的にかかわっていくための保育者の役割について考えていく。				
到達目標	① 環境を通して行う保育(教育)について説明することができる。 ② 幼稚園教育要領、保育所保育指針が示す「環境」のねらいや内容について説明することができる。 ③ 身近な環境とのかかわりが子どもにどのような意義があるのかについて考えることができる。 ④ 子どもが環境と主体的にかかわっていくための保育者の役割について考えることができる。				
授業計画	第1回	オリエンテーションー授業の進め方・参考文献等紹介ー			
	第2回	保育の基本と保育内容			
	第3回	法的に定められた「環境」に関すること・環境を通じた保育(教育)について			
	第4回	保育における環境について考える①ービデオ視聴よりー			
	第5回	保育における環境について考える②ービデオ視聴より保育環境について班ごとに発表ー			
	第6回	保育内容・領域について			
	第7回	領域『環境』のねらいと内容について			
	第8回	身近な環境とのかかわり①ー身近な自然とのかかわりについて事例から考えるー			
	第9回	身近な環境とのかかわり②ー身近な自然とのかかわりについて葉っぱのワークから考えるー			
	第10回	身近な環境とのかかわり③ー子どもが安心して環境とかわるための保育者の役割とはー			
	第11回	身近な環境とのかかわり④ー身近なもののかかわりについて事例から考えるー			
	第12回	身近な環境とのかかわり⑤ー身近なもののかかわりについておもちゃのワークから考えるー			
	第13回	環境構成について①ー保育室の環境構成ー			
	第14回	環境構成について②ー園庭の環境構成ー			
	第15回	環境とのかかわりについてのまとめ他			
授業に対する予習・復習	予習： 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』を読む でくこと。		復習： 前回の内容の復習をして授業に臨むこと。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 筆記試験(70%)、授業態度(30%)				
教科書	『幼稚園教育要領解説』(文部科学省、フレーベル館) 『保育所保育指針解説』(厚生労働省、フレーベル館)				
参考文献	『地球市民を育てる～子どもと自然をむすぶ～』(豊泉尚美他、圭文社)				
注意事項	・『幼稚園教育要領解説書』『保育所保育指針解説書』を忘れずに持ってきてください。 ・その他、必要な資料やレジュメは適宜、配布します。配布されたものを1冊にファイリングして毎回の授業の際に持参してください。				

科目名	保育内容(言葉)	単位数	1	担当教員	浅木 尚実
授業の内容	乳幼児の言語能力の発達、周囲の大人とのコミュニケーションから多大な影響を受けることを理解する。乳幼児の言語発達の過程を生活や遊びの事例を通して学び、発達を促す保育士の役割や保護者への援助の仕方を知る。また、子どもが楽しくことばを習得するための児童文化財の活用法を知る。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のことばの発達過程の流れを理解する。 ・各月齢での発達過程のポイントを習得する。 ・ことばの発達を促す児童文化財についての知識や技術を習得する。 				
授業計画	第1回	ことばの発達と環境① 児童文化と子どもの言葉			
	第2回	ことばの発達と環境② 赤ちゃんとのコミュニケーション：いないいないばあ論			
	第3回	ことばの発達と環境③ 乳児のことばを育む：わらべうたとマザリーズ			
	第4回	ことばの発達と環境④ 1, 2歳児のことばの発達と保育士の役割			
	第5回	ことばの発達と環境⑤ 3, 4歳児のことばの発達と保育士の役割・ことばの遅れについて			
	第6回	ことばの発達と環境⑥ 5, 6歳児のことばの発達と保育士の役割			
	第7回	絵本と言葉			
	第8回	子育て支援と絵本			
	第9回	幼児の聞く力：ストーリーテリングとは？ おはなしの選び方・覚え方・語り方			
	第10回	小学校準備と国語へのつながり・伝統的言語文化「昔話」の特色を学ぶ			
	第11回	おはなしを語る 演習① : おはなしを聞く			
	第12回	おはなしを語る 演習② : 昔話を学ぶ			
	第13回	おはなしを語る 演習③ : 昔話を語る			
	第14回	おはなしを語る 演習④ : 語った話の振り返りをする			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 教科書をよく読んでくる。 前回の授業の課題を準備する。 おはなしを覚え、語れるように練習する。		復習： 講義のノートをまとめる。 おはなしの発表後、振り返りシートにまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）発表（40%）授業態度（10%）				
教科書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）				
参考文献	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』 『保育内容・言葉』（同文書院） その都度紹介する。				
注意事項					

科目名	保育内容（音楽表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	二藤 宏美
授業の内容	保育や幼児教育の現場ですぐに使える、年齢別の歌と身体表現、合奏表現を学習します。同時に自らのリズム感や音感、歌唱力、楽典の知識を磨きます。まとめとして、ものがたりの表現劇を制作し、発表します。美しい音楽表現の規範を示せること、子どもとともに柔軟に音楽活動ができる感性を身につけることが目標です。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱う全ての歌と遊戯、合奏を覚え正しく表現できる。 ・それぞれの曲に施された身体表現や合奏アレンジの特徴や意図を理解する。 ・グループでの表現活動と発表に慣れる。 				
授業計画	第1回	発声、視唱、リズム反応、読譜の基本練習（以降、適宜扱う）			
	第2回	3歳児の合奏 発達段階の特徴と活動目標について			
	第3回	3歳児の合奏 楽曲の分析と実践（身体反応）			
	第4回	3歳児の合奏 楽曲の分析と実践（器楽合奏）			
	第5回	4歳児の合奏 発達段階の特徴と活動目標について			
	第6回	4歳児の合奏 楽曲の分析と実践（身体反応）			
	第7回	4歳児の合奏 楽曲の分析と実践（器楽合奏）			
	第8回	5歳児の合奏 発達段階の特徴と活動目標について			
	第9回	5歳児の合奏 楽曲の分析と実践（身体反応）			
	第10回	5歳児の合奏 楽曲の分析と実践（器楽合奏）			
	第11回	3拍子の楽曲、歌を伴わない身体表現			
	第12回	実技テスト 絵本をもとに表現1 歌作り			
	第13回	絵本をもとに表現2 合奏アレンジ			
	第14回	絵本をもとに表現3 身体表現とグループ演出			
	第15回	グループ発表とまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 授業で扱う曲の楽譜を確認しておくこと。		復習： 授業で扱った内容はその日のうちに完全に覚えましょう。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、発表（30%）、実技（20%）、授業態度（10%）				
教科書	『リトミックであそぼう 器楽合奏編』（定成淡紅子、全音楽譜出版社）				
参考文献	『きょうはみんなでクマがりだ』（マイケル ローゼン再話、評論社） 『はじめての楽典ブック』（長沼由美・二藤宏美、ヤマハミュージックメディア）				
注意事項	グループ作業や討論が中心です。協力し合い、学び合う態度をもちましょう。笑顔で積極的に自分を表現できるよう心がけ、この領域における自分の特技を何か一つ体得しましょう。				

科目名	保育内容（造形表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	稲葉 恭子
授業の内容	<p>幼児の造形表現を意欲的に展開させるために必要な基礎知識や技能と、幼児の成長発達にあわせた造形表現遊びを通して、幼児の豊かな感性を育む筋道を学びます。</p>				
到達目標	<p>1. 制作活動を主体的に取り組む事ができる。 2. 制作過程を大切にしながら、固定観念にとらわれない自分らしい造形表現活動ができる。 3. 基礎的知識や技能を元に、多様に応用できる力を身につける。</p>				
授業計画	第1回	造形表現活動の取り組み方について			
	第2回	描く－1 点であそぶ（綿棒で点描）			
	第3回	描く－2 直線・曲線であそぶ（クレヨン、色鉛筆）			
	第4回	描く－3 色の探検（クレヨンと絵具）			
	第5回	描く－4 よく見て描く（絵具）			
	第6回	立体－1 生活素材で手作りおもちゃ制作（紙皿・紙コップ）			
	第7回	立体－2 生活素材で手作りおもちゃ制作（牛乳パック）			
	第8回	立体－3 生活素材で手作りアナログゲームの制作			
	第9回	自然とふれあう－1 木の実・葉っぱのアート（小さな森の構想）			
	第10回	自然とふれあう－2 木の実・葉っぱのアート（木の実・木の葉で小さな森を表現）			
	第11回	自然のめぐみ－1 光とあそぶ・ステンドグラス（下書き）			
	第12回	自然のめぐみ－2 光とあそぶ・ステンドグラス（カット・彩色）			
	第13回	編む・織る－1 指編みあそび			
	第14回	編む・織る－2 織りあそび			
	第15回	造形表現活動のまとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 1. 次回の授業の準備物を、制作内容を考えながら整える		復習： 1. 授業ふり返りレポート作成 2. ミニ壁面飾り制作		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（20%）、課題（20%）、作品（40%）、授業態度（20%）				
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）				
参考文献	『クレヨンからはじめる幼児の絵画指導』（松浦龍子著、黎明書房）、 『幼児の絵画指導』（松岡義和著、黎明書房） 『おもちゃインストラクター入門』（NPO 法人日本グッド・トイ委員会監修、黎明書房） 授業中に随時紹介。				
注意事項	①作品等の提出期限を守ること。②授業に必要な道具や材料は各自責任を持って準備すること。 ③制作に要する材料費は本人負担。				

科目名	音楽 I (ピアノ)		単位数	2	担当教員	大輪 公彦 他
授業の内容	この授業では、保育現場で求められているピアノの演奏技術、その習得のために必要な音楽の基礎的な知識(楽典)、歌唱・伴奏法を学ぶ。各ピアノ担当につき6名前後のグループに分かれ、その半数が個別の実技指導を受ける。それ以外の半数はクラス授業でピアノ演奏に必要となる楽典やソルフェージュおよび保育現場で使用されているこどものうたについて学び、45分で交代する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な練習曲等を学習することで、保育現場で求められるピアノ演奏技術を習得することができる。 ・実習や保育現場での実践に対応できるよう、こどものうたの弾き歌いができる。 ・保育の中の音楽に必要な楽典やソルフェージュへの理解の深めることによって、楽譜の読み書きができ、自らの力でピアノで演奏することができる。 					
授業計画	第1回	オリエンテーション [授業内容、進め方について]		第16回	臨時記号と半音階 季節のうた(春) 弾き歌い① 教本 No.68-69	
	第2回	ハ長調の和音・分散和音の伴奏形① 教本 No. 1~8		第17回	16分音符を用いたリズム 季節のうた(春) 弾き歌い② 教本 No.70-72	
	第3回	分散和音の伴奏形②・③ 教本 No. 9~16		第18回	イ短調の主要三和音 季節のうた(春) 弾き歌い③ 教本 No.73-76	
	第4回	分散和音の伴奏形④ 4分音符と8分音符 教本 No.17~24		第19回	6度・3度の重音 季節のうた(夏) 弾き歌い① 教本 No.77-78	
	第5回	ハ長調の下属和音 教本 No.25~26		第20回	3連符 季節のうた(夏) 弾き歌い② 教本 No.79-80	
	第6回	ハ長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.27~32		第21回	ハ長調よりハ長調への転調 季節のうた(夏) 弾き歌い③ 教本 No.81	
	第7回	ト長調の主和音・下属和音・属和音 教本 No.33~38		第22回	3度の重音と8度の跳躍 季節のうた(秋) 弾き歌い① 教本 No.82	
	第8回	いろいろな伴奏形①・②・③・④ 教本 No.39~42		第23回	弱起の曲 季節のうた(秋) 弾き歌い② 教本 No. 83~84	
	第9回	高い音の練習 教本 No.43~46		第24回	ニ長調とニ短調の主要三和音 季節のうた(秋) 弾き歌い③ 教本 No. 85~86	
	第10回	3/8拍子と6/8拍子 生活のうたの弾き歌い① 教本 No.47~48		第25回	装飾音 季節のうた(冬) 弾き歌い① 教本 No. 87~90	
	第11回	付点4分音符を用いたリズム 生活のうたの弾き歌い② 教本 No.49~54		第26回	複付点音符 季節のうた(冬) 弾き歌い② 教本 No.91	
	第12回	ハ長調の音階 生活のうたの弾き歌い③ 教本 No.55~58		第27回	季節のうた(冬) 弾き歌い③ 教本 No.92~94	
	第13回	ハ長調の音階 生活のうたの弾き歌い④ 教本 No.59~61		第28回	マーチ、その他① 教本 No. 95~98	
	第14回	ト長調の音階 生活のうたの弾き歌い⑤ 教本 No.62~67		第29回	マーチ、その他② 教本 No. 99~102	
	第15回	これまでの授業のまとめと発表		第30回	マーチ、その他③ 教本 No.103~107	
授業に対する予習・復習	予習： 限られた個人レッスンの時間を有効に活用できるよう、与えられた課題を中心に十分に練習をしたうえで受講する。			復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 発表(20%)、実技(50%)、授業態度(30%)					
教科書	『教職課程のための大学ピアノ教本』(大学音楽教育研究グループ、教育芸術社) 『簡易伴奏による 実用 こどものうた』(田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版)					
参考文献						
注意事項						

科目名	音楽Ⅱ（ピアノ）		単位数	2	担当教員	大輪 公亮 他
授業の内容	音楽Ⅰ（ピアノ）で学んだ内容をもとに、教育実習や保育所実習、採用試験で重要視されるこどもの歌の弾き歌いを重点的に学ぶ。各クラスを担当する約4名の教員より指導を受ける。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ⅰ（ピアノ）で身につけた知識、演奏技術を更に深めることができる。 ・教育実習や保育現場での実践に対応できるよう、より多くのこどものうたの弾き歌いができる。 ・コードネームを用いた楽譜から、簡単な伴奏付けをすることができる。 					
授業計画	第1回	オリエンテーション		第16回	季節のうた 9月① 「とんぼのめがね」「つき」他	
	第2回	園生活のうた 弾き歌い① 「おはよう」「おはようのうた」他		第17回	季節のうた 9月② 「きらきら星」「どんぐりころころ」他	
	第3回	園生活のうた 弾き歌い② 「おべんとう」「おかえりのうた」他		第18回	季節のうた 10月① 「やきいもグーチーパー」「きのこ」他	
	第4回	園生活のうた 弾き歌い③ 「さよならのうた」他		第19回	季節のうた 10月② 「小さい秋みつけた」「まつぼっくり」他	
	第5回	季節のうた 4月① 他 「あくしゅでこんにちは」「せんせいとおともだち」		第20回	季節のうた 11月① 「大きなくりの木の下で」「まっかな秋」他	
	第6回	季節のうた 4月② 「チューリップ」「ちょうちょう」「めだかの学校」他		第21回	季節のうた 11月② 「夕やけこやけ」「たきび」他	
	第7回	季節のうた 5月① 「手をたたきましょう」「こいのぼり」他		第22回	季節のうた 12月① 「あわてんぼうのサンタクロース」他	
	第8回	季節のうた 5月② 「ぶんぶんぶん」「むすんでひらいて」他		第23回	季節のうた 12月② 「ジングルベル」他	
	第9回	季節のうた 6月① 「あめふりくまのこ」「あまだればったん」他		第24回	季節のうた 1月① 「お正月」「雪」他	
	第10回	季節のうた 6月② 「とけいのうた」「すてきなパパ」他		第25回	季節のうた 1月② 「雪のこぼろず」「雪のぺんきやさん」他	
	第11回	季節のうた 7・8月① 「たなばたさま」「うみ」他		第26回	季節のうた 2月① 「まめまき」「」他	
	第12回	季節のうた 7・8月② 「おぼけなんてないさ」「シャボン玉」他		第27回	季節のうた 2月② 「春がきた」「どこかで春が」他	
	第13回	あそびのうた① 「グーチョコキパーでなにつくろう」他		第28回	季節のうた 3月① 「うれしいひなまつり」「思い出のアルバム」他	
	第14回	あそびのうた② 「とんとんとんとんひげいさん」他		第29回	季節のうた 3月② 「さよならぼくたちのほいくえん」「一年生になったら」	
	第15回	あそびのうた③ 「むすんでひらいて」「こぶたぬきつねこ」他		第30回	コードネームを用いた伴奏づけ	
授業に対する予習・復習	予習： 毎日の練習を積み重ねることが上達の重要なポイントとなるため、授業に向けて各自2～3曲を選択し練習しておく。			復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 発表（30％） 実技（40％）、授業態度（30％）					
教科書	『簡易伴奏による 実用 こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版） ・必要に応じてプリントを配布する。					
参考文献						
注意事項						

科目名	図画工作		単位数	2	担当教員	染谷 哲夫
授業の内容	子どもたちの造形活動（あそぶ・えがく・つくる）を理解し展開するために、保育者として必要な基礎的な知識や技術を学ぶことをねらいとする。					
到達目標	①造形に関する基礎的な知識や技術を理解する。 ②制作活動では、自分らしい表現をめざして主体的に取り組む。 ③子どもたちとともに造形活動を楽しめる感性豊かな保育者を目指す。					
授業計画	第1回	授業の主旨説明 出席カードの作成	第16回	平面表現のいろいろ（基礎）		
	第2回	スケッチブックに記名（文字のデザイン）	第17回	平面表現のいろいろ（応用）		
	第3回	造形活動の意義と目的	第18回	石ころアート（着色）		
	第4回	子どもの造形表現について理解	第19回	石ころアート（着色と表面仕上げ）		
	第5回	形のとらえ方と表現（視点、遠近）	第20回	ポップアップカードの仕組みについて		
	第6回	形のとらえ方と表現（明暗、陰影）	第21回	ポップアップカードの制作（試作）		
	第7回	色彩について（三原色・混色を中心に）	第22回	ポップアップカードの制作（本制作）		
	第8回	自分を見つめて描く（線描き）	第23回	ポップアップカードの制作（本制作）		
	第9回	自分を見つめて描く（線描き・着色）	第24回	切り紙（雪の結晶・星など）		
	第10回	自分を見つめて描く（着色）	第25回	版画について		
	第11回	立体（彫塑）について	第26回	スチレン版画（版をつくる）		
	第12回	紙粘土で動物をつくる（成形①）	第27回	スチレン版画（刷り）		
	第13回	紙粘土で動物をつくる（成形②）	第28回	スチレン版画（刷り）		
	第14回	紙粘土で動物をつくる（着色）	第29回	段ボール額縁の制作		
	第15回	前期まとめ	第30回	まとめと自己評価		
授業に対する予習・復習	予習： 課題に対して資料等の準備及び構想を考える。		復習： 納得できる自己表現とするためには授業外での取り組みも必要。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 作品（50%）、授業態度（50%）					
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）					
参考文献	必要に応じて案内する。					
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創作活動が中心となるため、自ら考えて手を動かさない限り何も生まれこない。作品重視ではないが誠実で完成度の高い作品づくりをめざす。提出期日を守る。 ・ 制作に関する用具や材料費は個人負担 アクリル絵の具・筆・パレット等は学校で一括購入予定（約3,500円）、その他必要な物は自分で用意する。 					

科目名	体育（幼児体育を含む）		単位数	2	担当教員	塩崎 みづほ
授業の内容	子どもの生活は遊びが中心にあるといわれるくらい遊びによって成長し、生きていくのに必要なことを真似し学んでいきます。本講義では、子どもの発育発達の特徴を理解し、それに即した運動遊びについて学び、さらには指導法について実践的に学びます。ここでは、グループで決められた題材を用いて、ロールプレイを行います。					
到達目標	① 子どもの発育発達段階に応じた運動遊びの意義とその内容を理解する ② 運動遊びの指導法について理解する ③ 幼児教育者として自ら動ける身体づくりと、体力の維持・向上に努める力を習得する					
授業計画	第1回	乳幼児期の運動遊びの意義	第16回	運動遊びの実際		
	第2回	鬼ごっこについて考えよう	第17回	とび箱を使った遊び		
	第3回	豆袋を使った遊び	第18回	ボールを使った遊び		
	第4回	フープを使った遊び	第19回	巧技台を使った遊び		
	第5回	縄を使った遊び	第20回	サーキット遊び		
	第6回	マットを使った遊び	第21回	身近なものをつかった遊び		
	第7回	乳幼児の運動発達の特徴	第22回	表現遊びの指導法		
	第8回	表現遊び① －リズムカルな表現遊びを体験しよう－	第23回	運動遊び・表現遊びの指導案を作成してみよう		
	第9回	表現遊び② －シンメトリーの動きを体験しよう－	第24回	指導の実践①表現遊び		
	第10回	表現遊び③ －群の動きを創ってみよう－	第25回	指導の実践②マット遊び		
	第11回	表現遊び④ －だんだんできあがり体験しよう－	第26回	指導の実践③巧技台を使った遊び		
	第12回	表現遊び⑤ －小作品を創ろう－	第27回	指導の実践④ボールを使った遊び		
	第13回	表現遊び⑥ －小作品の踊りこみをしよう－	第28回	指導の実践⑤とび箱を使った遊び		
	第14回	表現遊び⑦ －発表会－	第29回	絵本を使った表現発表		
	第15回	発表会の振り返り 授業のまとめ	第30回	幼児期の運動遊びの必要性についてディスカッションしよう		
授業に対する予習・復習	予習： 次回に備え教科書の該当する箇所を熟読してくる。 ストレッチ等を日々の生活に取り入れ、実践する。			復習： 本時行った活動内容をノートにまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（20%）、課題（10%）、作品（10%）、発表（10%） 実技（20%）、授業態度（30%）					
教科書	『子どもの運動・表現遊び』（宮下恭子編、大学図書出版）					
参考文献	『保育と幼児期の運動あそび』（岩崎洋子編、萌文書林）『0歳からはじめるうごきづくり』（太田昌秀他著、幻冬舎ルネサンス）『保育の中の運動あそび』（石井美晴他編、萌文書林） 『0～5歳児のたのしい運動あそび』（黒井信隆・山本秀人編著、いかだ社）					
注意事項	実技の際は、学校指定の体操着を必ず着用すること 出席を重視する 意欲をもって積極的に取り組む姿勢を評価する					

科目名	乳児保育		単位数	2	担当教員	伊能 恵子
授業の内容	<p>乳幼児期における、発達の姿を心・体・生活等といった細かい項目に分けて明確に捉えることを目標とする。特に保育現場における援助方法の概要を提供することにより、乳幼児期の大切さと保育の重要性の実感を高め、理論と実践を結びつけることを本講義のねらいとする。そのため、乳幼児期の心・体の発達と、その発達を支える保育援助の実践との理解を以下の授業計画に沿って深めていきたい。</p> <p>また、保育士の専門性が求められている昨今、保育士資質向上へ向けて、学生個人個人が目標に照らし合わせて次の学びの第一歩として活用できるよう、講義内容を個別の添削指導により支援していく。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達を支える理論と、乳幼児期を支える保育現場の実践とを結びつけることができる。 ・学生には毎回の講義におけるレポートを義務付けるため、毎回の講義において定めた各内容を受講者全員が理解できる。 					
授業計画	第1回	生涯発達という捉え方		第16回	発達のながれ	
	第2回	乳幼児期（1） 発達の法則・考え方		第17回	人との関わりの発達と保育援助	
	第3回	乳幼児期（2） 新生児期と反射		第18回	保育所保育指針と保育援助	
	第4回	乳幼児期（3） 新生児・乳児期の発達		第19回	「養護」と保育援助（1） 保育所保育指針より	
	第5回	乳幼児期（4） 食事		第20回	「養護」と保育援助（2） 安全管理の視点より	
	第6回	発達の姿		第21回	「教育」と保育援助	
	第7回	睡眠の発達と保育援助		第22回	乳児期の母子相互作用	
	第8回	視覚の発達の保育援助		第23回	乳児期の重要性（1） 乳幼児期の保育	
	第9回	聴覚の発達と保育援助		第24回	乳児期の重要性（2） 乳幼児期の脳	
	第10回	知覚の発達と保育援助		第25回	乳児期の保育援助（1） 「人間」的発達の契機	
	第11回	情緒の発達と保育援助		第26回	乳児期の保育援助（2） あそびの視点	
	第12回	言葉の発達と保育援助（1） 言葉・語彙の発達		第27回	保護者支援	
	第13回	言葉の発達と保育援助（2） 絵本の力		第28回	保育者としての資質（1） 現場で求められる資質	
	第14回	認知の発達と保育援助		第29回	保育者としての資質（2） ビジネス・ライティング	
	第15回	まとめ（1）		第30回	まとめ（2）	
授業に対する予習・復習	予習： 毎回の講義の際に、次回の講義における予習課題を明示し、次回の講義の際提出を求める。		復習： 講義終了後、講義の理解を深め、理解の度合いを学生個人個人が確認でき、習得に役立てるための復習課題を課す。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（50%）、					
教科書	授業中に追って指示する					
参考文献	『保育士養成講座：発達心理学』（全国社会福祉協議会）、『実習育児学』（吉岡毅著、日本小児医事出版） 『保育と保健』（日本保育保健協議会）、『幼児教育と脳』（澤口俊之著、文芸春秋）、 『子どもの脳の発達臨界期・敏感期』（榎原洋一著、講談社）					
注意事項						

科目名	障 害 児 保 育	単位数	2	担当教員	齊藤 和良
授 業 の 内 容	この講義では、障害児保育の基本理念と意義を学び、知的障害や発達障害などの各障害の原因や特性及び保育上の留意点について理解を深め、障害児の発達の特性や問題点について論究していきます。さらに障害児の援助方法や家庭支援の在り方、医療や福祉などの関係機関との連携について学習します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解できる。 ・様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について工夫できる。 ・障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解できる。 ・障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解できる。 				
授 業 計 画	第1回	ガイダンス 障害児保育とは	第16回	発達障害児の理解と援助 ① 広汎性発達障害の分類・定義・心理的特徴	
	第2回	障害の理解 障害の概念、各障害の定義と分類	第17回	発達障害児の理解と援助 ② 学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)の定義と特徴	
	第3回	障害者処遇の歴史の変遷 障害児・者の歴史の変遷と障害児の保育・教育	第18回	障害児保育の実際 ① 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 ①	
	第4回	障害児保育を支える理念 ノーマライゼーション、統合保育、インクルージョン	第19回	障害児保育の実際 ② 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価 ②	
	第5回	障害児保育の意義と基本 障害児と健常児 共に育つことの意味	第20回	障害児保育の実際 ③ 個々の発達を促す生活や遊びの環境	
	第6回	特別支援教育・障害児保育の対象 特別支援教育の対象と目的、教育の場	第21回	障害児保育の実際 ④ 子ども同士のかかわりあいと育ち合い	
	第7回	視覚障害児の理解と援助 視覚障害の定義と分類、視覚障害児の心理的特徴	第22回	障害児保育の実際 ⑤ 職員間の協働	
	第8回	聴覚障害児の理解と援助 聴覚障害の定義と分類、聴覚障害児の心理的援助	第23回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ① 障害児の親の受容と受容過程、養育態度	
	第9回	肢体不自由児の理解と援助 肢体不自由児の分類と原因、脳性まひ児の分類	第24回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ② 家庭保育と家族に対する支援	
	第10回	知的障害児の理解と援助 ① IQとは、知的障害の定義・分類・原因	第25回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ③ 地域の専門機関等との連携	
	第11回	知的障害児の理解と援助 ② 知的障害児に対する支援	第26回	障害児をもつ親の理解と家庭支援 ④ 小学校との連携	
	第12回	言語障害児の理解と援助 言語障害の定義と分類、言語指導	第27回	障害児保育にかかわる現状と課題 ① 保健・医療における現状と課題	
	第13回	情緒障害児の理解と援助 ① 情緒障害の分類、選択性緘黙症やチックの心理的特徴	第28回	障害児保育にかかわる現状と課題 ② 福祉・教育における現状と課題	
	第14回	情緒障害児の理解と援助 ② 外傷性ストレス障害(PTSD)、自閉症スペクトラム	第29回	障害児保育にかかわる現状と課題 ③ 支援の場の広がりとながり	
	第15回	病弱、身体虚弱児の理解と援助 病弱・身体虚弱の定義、病弱児の心理的特徴と支援	第30回	障害児保育の今後の在り方	
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： シラバスに沿って、授業内容を教科書やインターネット等で調べ、あらかじめ把握しておくこと。		復習： 授業で指摘した問題点や要点をまとめる。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施(○)する/()しない 筆記試験(50%)、課題(30%)、授業態度(20%)				
教科書	『障害児保育 改訂版』(佐藤泰正・埴和明編、学芸図書)				
参考文献	授業内で随時紹介。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の私語・携帯電話の使用・飲食は厳禁。 ・決められた座席で授業を受ける。 				

科目名	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	佐藤 千代子
授業の内容	本講義では、社会的養護を必要とする背景、社会的養護の仕組み、実施体系、社会的養護を担う主な児童福祉施設の概要、そこでの子どもたちの暮らしを知るとともに、職員の日常生活支援、治療的支援、自立支援、家庭支援等について学ぶこととする。また、社会的養護における児童の権利擁護やその仕組み、保育士の倫理と責務についても学ぶこととする。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護が必要となる背景を理解する。 ・社会的養護を担う児童福祉施設の概要と施設で行われている支援の実際を学ぶ。 ・援助を行う際に必要となる知識や技術を身につける。 ・児童の権利擁護や保育士の倫理および責務について学ぶ。 				
授業計画	第1回	子どもを取り巻く社会的養護			
	第2回	社会的養護の体系			
	第3回	社会的養護の決定に関する基本的な仕組み — 児童相談所			
	第4回	施設養護の特性および実際 — 乳児院			
	第5回	施設養護の特性および実際 — 児童養護施設① 施設の概要（施設の形態と生活・児童の入所理由・職員配置など）			
	第6回	施設養護の特性および実際 — 児童養護施設② 支援の実際（被虐待児の支援を中心に）			
	第7回	施設養護の特性および実際 — 母子生活支援施設			
	第8回	施設養護の特性および実際 — 児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設			
	第9回	里親制度の特性および実際			
	第10回	自立支援計画と内容 — 自立支援の過程・自立支援計画書の実際			
	第11回	施設の日常生活支援			
	第12回	施設の治療的支援			
	第13回	家族再統合の支援			
	第14回	子どもの権利を守る仕組み — 第三者評価事業、苦情解決制度、子どもの権利ノートなど。			
	第15回	保育士の倫理と責務			
授業に対する予習・復習	予習： 難しい用語が頻繁に出てくるので、必ず予習をして講義に臨むこと。	復習： 理解を深めるために、毎回復習すること。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、レポート（20%）、授業態度（30%）				
教科書	プリントを配布する。				
参考文献	適宜紹介する。				
注意事項	<p>プリントや資料を用いて分かり易い講義を行うが、分からない点についてはそのままにしないで進んで質問すること。</p> <p>プリントは、ファイルにきちんと保管すること。複数回、復習を兼ねたレポートの提出を求める。</p> <p>授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。</p>				

科目名	保育所実習 I	単位数	2	担当教員	土屋 由
授業の内容	<p>保育所実習 I は、保育所実習のうち前期実習にあたり、実習の段階としては「見学・観察実習」となる。前期実習では、保育所の役割と機能を理解する、子どもの発達や援助への理解を深める、保育内容や環境への理解を深める、保育の計画や記録・省察による保育の実際への理解を深めるといった内容を中心に学ぶ。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の役割と機能を把握し、子どもの観察とその記録により子ども理解を深める。 ・ 保育の計画に基づく保育内容や保育環境を理解する。 ・ 保育士の役割と職業倫理を理解する。 				
授業計画	<p>前期保育所実習は、原則として第 2 学年の 2 月に実施する（2 週間）。</p> <p>見学・観察実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 				
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。	復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>実習施設による実習評価（50%）、実習日誌（30%）、実習課題（20%）</p>				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』				
参考文献	授業において紹介する。				
注意事項	実習に参加する学生は、心身ともに健康であり、学内における教科の履修状況・出席・学習態度が良好でなければならない。常に自分自身を見つめ直し、保育者になるための努力を続けることが求められる。				

科目名	施設実習	単位数	2	担当教員	近喰晴子・秋山展子
授業の内容	施設実習は、保育所以外の児童福祉施設と知的障がい者施設で行われる実習である。本学の主な実習施設として、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、知的障がい者支援施設などがある。原則として、11日間施設に宿泊又は通勤し、利用者と生活をともにしながら実習を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事前準備をしっかりと行い、実習施設について理解する。 ・利用者一人一人への適切な支援のあり方を習得する。 ・施設の機能を理解する。 				
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の一日の生活の流れを知る。 ・保育者の一日の職務を知る。 ・利用者の一日の過ごし方や活動内容を学ぶ。 ・自由時間の過ごし方やレクリエーションについて学ぶ。 ・衣食住に関する支援の実際や配慮事項について学ぶ。 ・日中活動における支援のあり方について学ぶ。 ・福祉施設における保育者の役割について学ぶ。 ・福祉施設内のチームワークのあり方について学ぶ。 ・施設の機能について多様な視点から学ぶ。 ・福祉事務所、児童相談所など他機関との連携について学ぶ。 ・利用者や施設について総合的に学び、実習を振り返る。 <p style="text-align: right;">以上11日間の学外実習をする。</p>				
授業に対する予習・復習	予習： 事前指導の受講が必須。		復習：		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>実習園評価（50%）、実習記録（30%）、実習課題（20%）</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	施設実習派遣には、「施設実習研究」の履修が必要条件である。				

科目名	保育所実習Ⅱ	単位数	2	担当教員	土屋 由
授業の内容	<p>保育所実習Ⅱは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育者として必要な資質・能力・技術を習得すること、さらには子どもの保育及び保護者・家庭への支援について総合的に学ぶ。実習の段階としては「参加・責任実習」であり、子どもの生活や発達へのかかわりを更に深め、保育者として職務内容や職業倫理についても理解を深めることが必要である。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心身の状態や活動の観察により保育を理解する。 ・保育士の動きや実践の観察と、作成した指導計画に基づく保育実践と評価をおこなう。 ・保護者への支援と、地域の子育て家庭への支援を理解する。 				
授業計画	<p>後期保育所実習は、原則として第3学年の9月（2週間）に実施する。</p> <p>参加・責任実習の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育者の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会などとの連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援と地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化 				
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、指導何の作成など必要な準備を行うこと。	復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。			
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>実習施設による評価（50%）、実習日誌（30%）、実習課題（20%）</p>				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』				
参考文献	授業にて紹介する。				
注意事項	保育に関連する教科書・参考文献を読む、また遊びの具体例などについて情報を集めて習熟しておくなど、実習に向けて積極的に自己学習のプランを立て実行すること。				

科目名	児童館実習	単位数	2	担当教員	秋山 展子
授業の内容	児童館において、約 10 日間の実習を行う。実習を通して、児童館・放課後児童クラブの現場で実際に業務を体験することで、児童館や放課後児童クラブの活動を理解するとともに、自分自身の適性を改めて見つめなおす。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解する。 ・一日の活動プログラムを理解する。 ・職員、児童の家族、地域社会の連携を理解する。 				
授業計画	<p>児童館実習の内容</p> <p>① 児童館・放課後児童クラブの役割、意義について実践を通じて理解</p> <p>② 一日の活動プログラムの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親クラブの活動について ・館全体のプログラム ・放課後児童クラブのプログラム <p>③ 活動への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導職員の助手の立場に立って、参加実習から、実習後半では部分指導実習、責任担当実習に入る。 <p>④ 職員、児童の家族、地域社会との関係の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員集団等専門家集団のチームワーク ・児童の家庭、地域との関わり方 ・児童館と高齢者・ボランティア等の関わりを学ぶ <p>以上、約 10 日間の校外実習を行う</p>				
授業に対する予習・復習	予習： 事前指導の受講が必須。		復習：		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>実習評価（80%）、実習日誌（20%）</p>				
教科書					
参考文献					
注意事項	児童館実習派遣には、「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」、「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法」、「児童館実習研究」の履修が必要条件である。				

科目名	保育所実習研究 I	単位数	1	担当教員	土屋 由
授業の内容	<p>保育所実習研究は、前期保育所実習（2年次2月）の事前事後指導である。事前指導では、保育所実習の意義や目的を理解する、実習課題を明確にする、実習記録の意義や記録方法・指導計画を学ぶなど、実習に関する必要な知識と心構えを身につけることを目的とする。事後指導では、実習に対する自己評価・反省を求め、後期保育所実習に向けての課題を明らかにし、前期実習から後期実習へと保育についての学びを深めていけるよう必要な準備を行っていく。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所実習の意義や目的を理解し、実習課題を明確にする。 ・実習記録の意義を理解し、記録方法を身につける。 ・実習に関する必要な知識と心構えを身につける。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	保育所実習の意義・目的の理解			
	第3回	前期実習の内容の理解			
	第4回	保育所についての理解			
	第5回	実習の心構え			
	第6回	実習に必要な書類の作成①			
	第7回	実習に必要な書類の作成②			
	第8回	実習課題を明らかにする			
	第9回	実習記録の意義の理解			
	第10回	実習記録の実際と方法①			
	第11回	実習記録の実際と方法②			
	第12回	実習に必要な実技の確認			
	第13回	オリエンテーションと実習中の心得			
	第14回	実習内容の振り返りとまとめ			
	第15回	後期保育所実習への課題を明確にする			
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。		復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）</p>				
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』 『基本保育シリーズ㊸ 保育実習』（近喰晴子、寅屋壽廣、松田純子 編、中央法規出版）</p>				
参考文献	授業において紹介する。				
注意事項	授業では、保育園での子どもの生活や実際の実習内容のイメージがもてるように、視聴覚教材やワーク・シートを活用する。実習に関する知識を身につけ、必要な準備を進めるために、原則として欠席はしないこと。				

科目名	施設実習研究	単位数	1	担当教員	近喰晴子・秋山展子
授業の内容	<p>保育所を除く児童福祉施設を中心とした実習準備のための授業である。実習の目的や意義、実習内容等福祉施設実習に必要な知識や技能を学ぶ。また、福祉施設利用者の権利擁護、施設職員としての倫理観、実習生としての勤務のあり方についても学ぶ。実習に必要な書類の提出のほか実習施設から届けられる様々な情報も授業時に伝える。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 施設の種別、それぞれの機能について理解する。 施設の種別ごとの利用者について理解する。 施設実習に必要な知識や技能を身につける。 				
授業計画	第1回	施設実習の位置づけ、意義について 実習申込書（誓約書）の配布			
	第2回	実習の要件、実習の形態、実習中に必要とされる事項 実習申込書の提出			
	第3回	養育を必要とする福祉施設における実習			
	第4回	障がいをもつ人たちのための福祉施設での実習			
	第5回	実習希望調査 配当資料の提出			
	第6回	養護系福祉施設における実習内容			
	第7回	障がいをもつ方が利用する福祉施設における実習内容			
	第8回	実習課題について			
	第9回	実習書類の記入と提出			
	第10回	実習施設におけるオリエンテーションについて			
	第11回	実習施設研究			
	第12回	実習日誌の書き方			
	第13回	実習書類の確認 細菌検査、実習施設に提出するレポートや誓約書等			
	第14回	実習直前指導、各種報告書の準備			
	第15回	実習評価、個別面談			
授業に対する予習・復習	<p>予習： 生活支援に必要とされる生活技術の確認 実習施設研究 障がいや病気に対する知識 養育を必要とする乳幼児の実態や社会の状況</p>		<p>復習： 福祉系、養護系テキスト等の熟読 児童福祉法や関連法規の復習</p>		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（20%）、授業態度（20%）、実習書類提出（10%）</p>				
教科書	『福祉施設実習ハンドブック』（岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲・児玉俊郎 編、株式会社みらい）				
参考文献					
注意事項					

科目名	保育所実習研究Ⅱ	単位数	1	担当教員	土屋 由
授業の内容	保育所実習研究Ⅱは、後期保育所実習（3年次9月）の事前事後指導である。事前指導では、後期保育所実習の目的や内容を理解すること、実習課題を明確にすること、指導計画の作成や実習に必要な実技を確認することを行っていく。事後指導では、実習の総括と自己評価を求め、実習報告会などの振り返りの場を通して、保育についての課題を明確にしていく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・後期保育所実習の目的や内容を理解し、実習課題を明確にする。 ・指導計画の立案に必要な知識を身につける。 ・実習の総括と自己評価をおこない、自己の課題を明確にする。 				
授業計画	第1回	後期実習の目的・内容の理解			
	第2回	実習に必要な書類の作成③			
	第3回	実習に必要な書類の作成④			
	第4回	実習課題を明らかにする			
	第5回	指導案作成上の基本の確認			
	第6回	指導案の立案①幼児クラス主活動			
	第7回	指導案の立案②幼児クラス生活場面			
	第8回	指導案の立案③未満児クラスの場合			
	第9回	指導案の立案④未満児クラスの場合			
	第10回	実習に必要な実技の確認			
	第11回	実習記録の実際と方法			
	第12回	実習内容の振り返りとまとめ			
	第13回	実習報告会の準備			
	第14回	実習報告会			
	第15回	実習の総括			
授業に対する予習・復習	予習： 実習に向けて、必要な準備を行うこと。		復習： 実習の内容を振り返り、課題を明確にすること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、手続き（10%）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』				
参考文献	授業において紹介する。				
注意事項	指導案の作成にあたり、様々な授業を通して学んできた遊びや造形表現のアイデアが必要になる。子どもとの活動に際して、役に立ちそうなものをノートにまとめておくなど、学びに対する主体的な態度をもつよう心掛けてほしい。実習について必要な準備を進めるため、原則として欠席はしないこと。				

科目名	児童館実習研究	単位数	1	担当教員	秋山 展子
授業の内容	児童館実習を履修する学生は必ず履修しなければならない。授業は実習の前後にわたって実施される。実習前の授業では、児童館・放課後児童クラブの実際の活動内容を理解するため、先輩の実習報告を参考に理解を深め、実習への動機付けを図る。その上で実習調査書の作成をはじめ、実習の目的やねらいの理解、オリエンテーション、日誌の記入方法、実習手続き書類の作成等の指導を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童館実習の意義を理解する。 児童館実習に必要な知識と技能を習得する。 児童館、放課後児童クラブの特性と実習における課題を理解する。 				
授業計画	第1回	児童厚生員一資格の説明と取得までの手順の説明			
	第2回	児童館実習参加申込書の配布と申込書の提出			
	第3回	児童館実習の意義、目的の理解			
	第4回	児童館実習参加者の体験談を聞き、その感想文を通して、文章の書き方を学ぶ - 1			
	第5回	児童館実習参加者の体験談を聞き、その感想文を通して、文章の書き方を学ぶ - 2			
	第6回	調査書の作成-下書き			
	第7回	調査書の作成-下書き			
	第8回	調査書の作成-清書			
	第9回	実習日誌の記入の意義について			
	第10回	実習日誌の記入方法(例示)			
	第11回	オリエンテーションについて			
	第12回	指導案の概要と作成			
	第13回	細菌検査の方法とその方法			
	第14回	実習後の対応・礼状等-について			
	第15回	実習直前指導（実習への心構え、緊急時への対応の確認等々）			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 実習後に、児童館からの評価を土台に、良かった点、反省点や今後の課題を明確にし、次の実習へとつなげていく。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）授業態度（70%）				
教科書	授業でプリントを配布				
参考文献					
注意事項	児童館実習派遣には、本授業の他に「児童館・放課後児童クラブの機能と運営」と「児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法」の履修が必要条件である。				

科目名	国語教育	単位数	2	担当教員	浅木 尚実
授業の内容	幼児期における国語教育の基礎は、「読む・書く」よりも、「聞く・話す」にある。その延長線上には、「伝える・考える」能力が展開していく。母国語である日本語を正しく、美しく伝え、受けとる技術を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとって質の高い文学である絵本及び幼年文学とは何かを習得する。 ・児童詩や童話を鑑賞し、子どもへの指導法を習得する。 ・伝統的言語文化である昔話の特色を学び、小学校での学びへの連携を理解する。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	読む・聞く―絵本①：絵本の基本を学ぶ			
	第3回	読む・聞く―絵本②：文章の読み方・絵の読み方を知る			
	第4回	読む・聞く―絵本③：絵本のことばを鑑賞する			
	第5回	聞く・話す①―早口ことば・なぞなぞ・ことば遊び			
	第6回	聞く・話す②―紙芝居			
	第7回	読む―童謡・詩・幼年童話			
	第8回	聞く―伝統的言語文化「昔話」			
	第9回	書く①：脚本を書く			
	第10回	書く②：脚本を書く			
	第11回	伝える①：紙芝居制作			
	第12回	伝える②：紙芝居制作			
	第13回	伝える③：発表			
	第14回	伝える④：発表			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 前の授業の課題について準備を行なう		復習： 教科書をまとめる		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（40%）、課題（20%）、作品（10%）、発表（20%）、授業態度（10%）				
教科書	『絵本から学ぶ子どもの文化』（浅木尚実編著、同文書院）				
参考文献	その都度紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・グループによる学習に積極的に参加する ・紹介された児童文化財に実際に触れ、知識、技術を深める。 				

科目名	数量教育	単位数	2	担当教員	星野 治
授業の内容	この授業では、身の回りのあらゆる事象を「数」・「量」・「形」の観点から見つめ直すことを通して、「数」・「量」・「形」の意味するものや、「数」・「量」・「形」の取り扱われかたを考察する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの社会が「数」・「量」・「形」を抜きにしては、成り立たないことを確認できる。 ・幼少時から慣れ親しんできた「数」・「量」・「形」が、私たち自身の社会感覚の形成過程に際して重要な鍵の一つであることを、各人なりに理解できる。 ・幼児の将来の学校活動（例：算数授業への参加など）や社会活動（例：買い物など）に無理なく結び付けられるような、数量教育指導のありかたを考えることができる。 				
授業計画	第1回	数の面白さ・不思議さ “数”のもつ魅力を概観する。			
	第2回	言葉としての数 “数”が言葉の一種であることを確認する。			
	第3回	数の種類 実際に使われている、いろいろな“数”を概観する。			
	第4回	数量と図形との関係 “かず”と“かたち”との対応を概観する。			
	第5回	生活の中の数・量・形 日常の諸活動の中に登場する“数”を概観する。			
	第6回	遊びの中の数・量・形① いろいろな遊びの中に垣間見られる“数”を概観する。			
	第7回	数・量に関する先人の知恵① 実用されている様々な“単位”の意味を概観する。			
	第8回	数・量に関する先人の知恵② これまでに考案されてきた、実用的な数値処理手法について概観する。			
	第9回	文芸作品の中の数・量・形① “数”の観点から、往年の名作（主に文章作品）を鑑賞し直す。			
	第10回	文芸作品の中の数・量・形② “数”の観点から、往年の名作（主に映画作品）を鑑賞し直す。			
	第11回	小・中学校の算数・数学① 文部科学省の学習指導要領のうち、小学校の算数に関する内容を概観する。			
	第12回	小・中学校の算数・数学② 文部科学省の学習指導要領のうち、中学校の数学に関する内容を概観する。			
	第13回	遊びの中の数・量・形② 数遊びそのものを通して、“数”の面白さを概観する。			
	第14回	幼児教育における数・量・形 未就学児にとって必要な“数”とは何かを見直す。			
	第15回	全体のまとめ 「数」・「量」・「形」に対する教育のありかたを、各自なりに整理する。			
授業に対する予習・復習	予習： 予習が必要とされる事項については、担当教員が指示する。	復習： 復習が必要とされる事項については、担当教員が指示する。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（70%）、授業態度（30%）				
教科書	必要に応じて随時指定する。				
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）、『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『小学校学習指導要領』（文部科学省）、『中学校学習指導要領』（文部科学省）、その他必要に応じて随時紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式であるが、解題一辺倒だけではなく、算数（・数学）に関する話題や文芸作品についても取り扱う。 ・小学校レベルの算数問題は、一見単純そうであるが、いざ解こうとすると案外手こずることが多い。決して油断しないこと。 ・他の授業で使用する教科書や参考文献を、この授業でも使用する場合がある。 ・この授業で取り扱う話題（問題）は、いわゆる算数・数学の問題とは異なり、解答が一つだけであるとは限らない。また、個々の話題の内容を理解するには、幅広い背景知識が求められる。“自分自身ならばこう考える”という能動的な態度で、授業に参加してほしい。 				

科目名	保育者論	単位数	2	担当教員	石河 信雅
授業の内容	少子化、高齢化、情報化社会、知識基盤社会などと現代は表現されている。この様な、社会の変化に伴い保育や保育者の役割が変化しつつある。しかし、保育者はいつでも子どもと共に「過去」「現在」「未来」を生きていかなければならない。子どもと共に、保護者と共に、同僚や地域社会と共に生きることが重要である。そのためにも専門家としての職務、資質、専門性、現代社会における保育者の在り方等について、理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育の「質」について自分自身の考えが持てる。 2 保育者を目指す身として「今」自分は何をしなければならぬかをしっかり見据え、分析し、学びに取り組む姿勢をつくる。 3 保育者とは常に学び続けなければならない存在である、そのためにも学びの手法を身に付ける。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション 本講義の到達目標をしっかりと確認し、これからの学びについての心構えを持つようにする。また、講義についての受講態度や講義内容について理解し各自の意欲化を図る。			
	第2回	保育の質について。 保育の質について、各種の「論」を考察し、これから目指すべき幼稚園や保育園等での保育の質について様々な考えがあることを理解する。			
	第3回	保育者の質について。 保育の質について理解し、その保育を実践する保育者とはどのようなべきか、その質とはどのようなものかを理解し、これからの学びを自分自身の成長に資するよう意欲化を図る。			
	第4回	先人の教えに学ぶ。先人の教えなどにより保育のあるべき姿について考察し、保育者としてあるべき姿を描き、実践者としての質を高めるための方法を理解する。			
	第5回	保育の基礎。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」を参考に、保育の実際や保育の基本について理解する。			
	第6回	保育者として行うべき仕事について。保育者として、実際に行うべき仕事について実践事例から学ぶ。特に、幼稚園前期実習前でもあるので実習において何を学ぶべきかを理解する。			
	第7回	保育者として身に付けておきたい資質について。保育者として身に付けておきたい資質の一つとして、コミュニケーション能力がある。コミュニケーション能力とは何かを実践をとおして学び理解する。			
	第8回	保育者として、育てたい幼児像を描く。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型 認定こども園教育・保育要領」を参考にしながら、育てたい幼児像に迫り考察する。			
	第9回	保育実践の実際。子どもたちの実態さらに保護者の願い、社会の様々な要求に応える保育とはどのようなべきかを分析し、考察する。理想とすべき保育実践を各自のなかで明らかにする。			
	第10回	保育者として「理想」の保育を行うために「今」何を学び、何を身に付ければよいか。理想とする保育実践を行うために「今」何を学び、どのような資質を身に付けておくべきかを理解する。			
	第11回	子どもの発達と保育内容。子どもの発達について専門領域で学んだ内容を保育の実践に活かす方法について、事例をもとに学び理解する。			
	第12回	子育て支援、地域との連携について。子育て支援の実際や地域との連携の実際について事例を通して学び理解する。特に、子育て支援は核家族化における現代社会において重要な事柄であることを理解する。			
	第13回	保幼小連携について。保育園、幼稚園、認定こども園と小学校との連携は「今」非常に重要な課題である。特に、小学校での小1プログラムなどの課題解決のためにもその重要性を理解しておかなければならない。			
	第14回	現代社会の情勢について。保育は、社会情勢の在り方に大きく左右される側面を持つ。社会情勢を様々な視点から観られる様になることは保育者として身に付けておきたい資質である。中庸な目での情報収集の在り方について理解する。			
	第15回	保育者の成長と同僚性、そしてまとめ。保育者は常に学び続けなければならない。そのためにも、学び方を身に付け同僚との学びの重要性について実践事例から学び理解する。いつまでも自分を磨き成長させる保育者となることの重要性を理解する。			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 講義内容について自分自身で見直し、身に付けるようにする。また、関連事項を自分なりに掘り起こし、学びを広げるようにする。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（50%）、レポート（30%）、授業態度（20%）				
教科書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』＜原本＞ （内閣府・文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社）				
参考文献	講義の中で随時提示する。				
注意事項	教科書については、教育・保育要領や教育要領、保育指針の原本を所持していれば、それを使用する。特にチャイルド本社の物である必要はない。				

科目名	教育社会学	単位数	2	担当教員	越川 葉子
授業の内容	本講義では、教育という身近な営みを、社会学という学問的立場からアプローチすることで、受講生がこれまで自明視してきた教育観や子ども観を捉えなおし、保育実践に応用可能なものの見方や考え方の獲得を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己と社会との関わりを日常生活の身近な現象からつかみとることができる。 子どもの社会化過程を具体的な事例に即して理解することができる。 保育者として実践場面に応用可能な社会的なものの方を見方を身に付けることができる。 				
授業計画	第1回	オリエンテーションー教育社会学とは何かー			
	第2回	「私」のなかの「社会」を見る①ー学校教育を問いなおすー			
	第3回	「私」のなかの「社会」を見る②ー選抜・配分装置としての学校ー			
	第4回	「私」のなかの「社会」を見る③ー働くことの意味ー			
	第5回	「私」のなかの「社会」を見る④ーアイデンティティ形成ー			
	第6回	「社会」を観察する①ー「生きづらさ」を「ジェンダー」の視点から捉えるー			
	第7回	「社会」を観察する②ー日常に潜む「権力」関係をつかむー			
	第8回	「社会」を観察する③ー「子ども」はどこにいるのかー			
	第9回	子どもの問題行動とどう向き合うか①ー個人の問題としての問題行動ー			
	第10回	子どもの問題行動とどう向き合うか②ー社会の問題としての問題行動ー			
	第11回	子どもの問題行動とどう向き合うか③ー人びとの活動が問題をつくるという視点ー			
	第12回	現代の子ども問題について考える①ーいじめ問題の成立過程ー			
	第13回	現代の子ども問題について考える②ーいじめ問題とどう向き合うかー			
	第14回	子どもの「社会化」を考える①ー家族の中の「子ども」についてー			
	第15回	子どもの「社会化」を考える②ー就学前教育から学校生活への移行についてー			
授業に対する予習・復習	予習： 特になし。		復習： 講義で配布したプリントを再読し、疑問点をまとめておくこと。 講義で紹介した資料や参考文献を手にとり、自分の目で再読すること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特になし。				
参考文献	必要に応じて適宜、紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の私語や不要物の持込は認めない。 授業毎にプリントを配布する。配布プリントはファイルにまとめて保管しておくこと。 授業毎に課題を出す。課題は授業時間内に作成・提出すること。 授業内に受講生に意見を求める予定である。受講生が積極的に質問・意見を表明することを期待する。 				

科目名	保育課程論	単位数	2	担当教員	鯛谷 和代
授業の内容	関係法令、保育所保育指針、認定こども園、幼稚園教育要領の趣旨を理解し、全在所、在園期間を見通した、保育課程・長期（年間・期間・月）短期（週・日・特定の活動など）の指導計画。その資料による保育構想から、全体像を学び取り指導計画をたてながら、学んでいく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者は何を基準に保育を行うのか説明できるようになる。 ・ねらいや子どもの姿から経験させたい、具体的な活動がすぐに思い浮かぶようになる。 ・自分の園を作るならどのような方針目標をかかげるかを考え、それを実現するための保育室・園庭の設計図を作成する。 				
授業計画	第1回	子どもの生活の連続性、および発達や学びの連続性の関係性について			
	第2回	保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領について			
	第3回	関係法令（教育基本法・学校教育法・児童福祉法・児童福祉施設の基準など）について			
	第4回	保育は何を基準に行うのか、保育課程の独自性について			
	第5回	保育の全体計画と保育計画の必要性について			
	第6回	保育課程編成の基本的な考え方について			
	第7回	保育課程編成に必要な基本的事項について			
	第8回	園の概要（方針・目標など）を作成する（グループワーク）			
	第9回	保育室・園庭を設計図作成する（グループワーク）			
	第10回	保育課程と指導計画の関係について			
	第11回	保育課程がどのように計画として具現化されていくのかについて			
	第12回	指導計画の作成① 保育課程から長期指導計画（第1・2期）を作成（グループワーク）			
	第13回	指導計画の作成② 保育課程から長期指導計画（第3・4期）を作成（グループワーク）			
	第14回	指導計画の作成③ 長期指導計画（月案）から短期指導計画（週案）を作成（グループワーク）			
	第15回	保育の評価と保育要領の書き方について			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 毎回の資料整理 (14回目にまとめて資料提出)		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（50%）、課題（30%）、発表（20%）</p> <p>※单元ごとに小テストをおこないます</p>				
教科書	『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				
参考文献	幼稚園教育指導資料第1集『指導計画の作成と保育の展開』（文部科学省） 幼稚園教育指導資料第2集『幼児理解と評価』（文部科学省）				
注意事項	分からないこと、疑問点がある場合には、その場で質問をするようにしましょう。				

科目名	保育内容（音楽表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	二藤 宏美
授業の内容	身体を使った音楽表現ゲームを学習します。授業では、実際にリーダー役となってクラスのメンバーにゲームを伝える実践を通し、展開手法を学びます。遊びに関連した簡単な歌やピアノの即興演奏を体験します。適宜サウンドスケープの理念に基づく身近な音探索課題も紹介します。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱った音楽ゲームの内容と意図を理解する。 ・指導者として状況に応じて柔軟にプログラム展開ができる。 ・身近な音環境について深く考察できる。 ・聴覚的な想像や音づくり活動の重要性を実感する。 				
授業計画	第1回	身近な環境にある音を聴く 静止した音、動く音			
	第2回	からだの中の音楽を見つける			
	第3回	ビートにのろう リズムのオスティナート			
	第4回	ビートにのろう 変化するリズムパターン			
	第5回	拍子を感じよう 2拍子、3拍子、4拍子			
	第6回	拍子を感じよう 8分の6拍子			
	第7回	静寂と音作り 紙を使って			
	第8回	フレーズ・呼吸・空間 ともだちとかかわる			
	第9回	フレーズ・呼吸・空間 アクセントを予感して			
	第10回	イメージ遊び ジャングルの音			
	第11回	イメージ遊び パン屋さんごっこ			
	第12回	即興演奏 高い音 低い音 ドの即興			
	第13回	即興演奏 ソファミ 音の階段			
	第14回	歌と楽器でゲーム おきなわのうみ			
	第15回	声だけを使った表現（水、街、童話）			
授業に対する予習・復習	予習： 持ち回りでリーダーになり、教科書で紹介されているゲームを伝えます。担当になったら万全に準備をしましょう。	復習： 扱ったゲームの意義、プログラム展開、課題、感想をまとめておくこと。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（30%）、発表（30%）、実技（30%）、授業態度（10%）				
教科書	『リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選』（神原雅之、明治図書）				
参考文献	『サウンド・エデュケーション』（R. マリー・シェーファー、春秋社）				
注意事項	音や音楽を扱う授業です。しっかり声を出し音を奏でるべき場面もあれば、沈黙必須の場面もあります。心して臨んで下さい。				

科目名	保育内容（造形表現Ⅱ）	単位数	1	担当教員	稲葉 恭子
授業の内容	<p>子どもの発達段階を踏まえた造形表現について理解を深めながら、子どもの表現意欲を引き出す言葉かけや関わり方を学びます。</p> <p>素材の持ち味を活かした造形表現を考え、子ども達が心を解放し生き活きと表現出来る行動計画の構成を学びます。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者として豊かな感性および創造性と表現力を身につけ、子どもの表現活動を多様な方面から受けとめ支援できる保育者をめざす。 2. 乳幼児期に適した非言語コミュニケーションの手段を豊富に持ち、子どもが表現したくなる手立てを状況に応じて提供できる専門性を身につける。 3. 子どもの発達に応じた造形表現の行動計画を考え、構成できる力を身につける。 				
授業計画	第1回	授業のねらいと進め方について・子どもの造形活動の保育環境設定について			
	第2回	感性・イメージを豊かにする－1 スタンピング（スタンプ制作）			
	第3回	感性・イメージを豊かにする－2 スタンピング（スタンピングで表現）			
	第4回	感性・イメージを豊かにする－3 素材を活かした楽器制作（素材選び）			
	第5回	感性・イメージを豊かにする－4 素材を活かした楽器制作（グループ演奏）			
	第6回	感性・イメージを豊かにする表現活動の指導計画			
	第7回	あそびを豊かにする－1 人形遊びを楽しむ（動く棒人形制作）			
	第8回	あそびを豊かにする－2 人形遊びを楽しむ（人形あそび発表）			
	第9回	あそびを豊かにする－3 紙袋であそぶ（魚の制作）			
	第10回	あそびを豊かにする－4 紙袋であそぶ（水族館づくり）			
	第11回	あそびを豊かにする造形表現活動の指導計画			
	第12回	環境・行事を豊かにする－1 四季を彩る壁面構成（四季の行事からテーマを決め下書き）			
	第13回	環境・行事を豊かにする－2 四季を彩る壁面構成（壁面装飾制作）			
	第14回	環境・行事を豊かにする造形表現活動の発表			
	第15回	造形表現活動のまとめと自己評価			
授業に対する予習・復習	予習： 1. 次回授業の準備物を、制作内容を考えながら整える		復習： 1. 制作活動のふり返し 2. ミニ壁面制作		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（20%）、課題（20%）、作品（40%）、授業態度（20%）</p>				
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）				
参考文献	『表現活動の行動計画表づくり』（芸術教育研究所監修・平井由美子編著、黎明書房） 授業中に随時紹介。				
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> ①作品の提出期日を守ること。 ②授業に必要な道具や材料は各自責任を持って準備すること。 ③制作に要する材料費は本人負担。 				

科目名	保育指導法	単位数	2	担当教員	當麻 祐子
授業の内容	基本的な知識と保育教材研究を通して実践的に学ぶ。 様々な教育・保育場面を想定し、ビデオやグループ討議など交えながら学んでいく。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を映したビデオを見て、子ども理解の課題に答えることができる ・提示されたエピソードに対し、学生同士で話し合い、色々な視点があることに気付くことができる ・指導要領と実際の保育教育をつなげて理解することができる ・幼児教育に携わることへの責任とやりがいを感じとることができる 				
授業計画	第1回	保育指導法とは何か	第16回	基本的な生活習慣の指導	
	第2回	子ども理解と保育方法	第17回	さまざまな安全指導	
	第3回	子ども理解と発達	第18回	園外の環境と保育	
	第4回	発達の特徴と保育（2歳まで）	第19回	教育課程と指導計画	
	第5回	発達の特徴と保育（3～5歳）	第20回	保育研究～運動	
	第6回	環境を通しての保育	第21回	保育研究～言葉	
	第7回	保育における遊び	第22回	絵本と月刊誌	
	第8回	遊びを通しての指導	第23回	指導案と実践	
	第9回	個と集団の育ち	第24回	実習エピソードから学ぶ	
	第10回	様々な保育形態	第25回	園行事について	
	第11回	保育研究～自然	第26回	特別支援教育について	
	第12回	保育研究～造形	第27回	地域との連携・保護者とのかかわり	
	第13回	保育研究～音楽	第28回	保幼小連携と小学校への接続	
	第14回	保育研究～動物	第29回	保育者の専門性	
	第15回	まとめ	第30回	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 授業で使用したプリント等で各自復習する		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（60%）、課題（10%）、授業態度（30%）				
教科書	オリジナルのパワポスライドを使用（適宜配布）				
参考文献	『ここが変わった！新幼稚園教育要領 改訂のポイントと解説』（無藤 隆 監修、チャイルド本社）				
注意事項	人格の基礎を培う幼児期の保育教育に携わるための勉強であることを自覚して臨むこと。 授業へ取り組む姿勢を重視していく。				

科目名	教育方法・技術論	単位数	1	担当教員	越川 葉子
授業の内容	<p>幼児教育における教育方法と技術に関する基本的な事柄について学ぶ。また、情報機器やそれらを活用した教材の活用、教材作成の技術と方法について学び、実際に教材を作成し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは、各回10名前後の学生が個人発表の形式で行なう（発表は全3回を予定）。発表内容については、授業時間内に意見交換を行ない、よかった点や改善点を学生同士で共有する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の立場にたって具体的な教育方法について考察することができる。 ・子どもや保護者を想定して、保育者の実践のねらいを適切に伝える方法を実践することができる。 ・具体的な情報機器や情報メディアを通じて、教育目標に即した教材を作成することができる。 ・学生相互が発表する機会を持ち、プレゼンテーション能力や聞く態度を身につけることができる。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション—教育方法とは何か—			
	第2回	教育方法の基本原則—教育の目的と手段の関係について—			
	第3回	幼児教育における方法と技術①—「教材」とは何か—			
	第4回	幼児教育における方法と技術②—「教材」としての絵本の使い方—			
	第5回	幼児教育におけるメディアの活用①—映像の読み方・使い方—			
	第6回	幼児教育におけるメディアの活用②—出来事をどのように伝えるか—			
	第7回	ワープロを活用した教材作成①—作図機能の基礎—			
	第8回	ワープロを活用した教材作成②—作図機能と描画の活用—			
	第9回	プレゼンテーションソフトの活用①—教材作成の目標設定と計画設計—			
	第10回	プレゼンテーションソフトの活用②—発表資料の制作—			
	第11回	プレゼンテーションソフトの活用③—発表資料の制作—			
	第12回	プレゼンテーションの技法①—個人発表および意見交換①—			
	第13回	プレゼンテーションの技法②—個人発表および意見交換②—			
	第14回	プレゼンテーションの技法③—個人発表および意見交換③—			
	第15回	プレゼンテーションの技法④—プレゼンテーションの振り返り—			
授業に対する予習・復習	<p>予習： 幼保施設や児童館で配布される「おたより」などを日ごろから集めておくこと。 幼稚園や保育園のHPで用いられている文章や写真に目を通しておくこと。</p>		<p>復習： 授業時間外を利用して、各自の進捗に応じて課題の制作を進めておくこと。</p>		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（60%）、発表（40%）</p>				
教科書	特になし。				
参考文献	必要に応じて適宜、紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜プリントを配布する。 ・毎時間、課題にきちんと取り組むこと。 ・課題の提出期限は厳守すること。 				

科目名	教育相談	単位数	2	担当教員	伊藤 明芳
授業の内容	<p>教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになって考えられる。</p> <p>本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で生きる教育相談の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。</p>				
到達目標	<p>①カウンセリング等相談の基本を学び、それを保育現場での教育相談の実践に活かすことを考えられる。</p> <p>②保育者として多様な子どもや保護者の問題を理解し、相談者の心に寄り添う相談実践を勇気を持っておこなえるようになる。</p>				
授業計画	第1回	1. イントロダクション 教育相談とは何か			
	第2回	2. 体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [相談を受ける時の基本姿勢]			
	第3回	ロールプレイ(2) [意思を通じあうこと]			
	第4回	3. 相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1) [概要]			
	第5回	教育相談の基礎(2) [実践へのヒント]			
	第6回	教育相談のためのカウンセリング活用			
	第7回	教育相談のための心理アセスメント			
	第8回	教育相談のプロセス			
	第9回	教育相談の技法			
	第10回	4. 事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1) [登園渋り]			
	第11回	子どもの心の発達・心の問題(2) [逸脱行動]			
	第12回	子どもの心の発達・心の問題(3) [保護者の心]			
	第13回	5. 保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論			
	第14回	エンカウンター実習			
	第15回	まとめと今後へのアドバイス			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 知識の定着をおこない、学んだことを実際の場面でどう活かすか考えること。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない</p> <p>筆記試験（80%）、課題（20%）</p>				
教科書	特に指定しない				
参考文献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する				
注意事項	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。</p> <p>相談を受けて人に関わるとき、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。</p>				

科目名	幼児教育実習	単位数	4	担当教員	近喰 晴子
授業の内容	授業を通して学んだ知識や技能が、幼児教育の場でいかに活かされ応用することができるかということを実践を通して学び、保育の営みを総合的に理解する。また、保育の様子を観察する、子どもの活動に参加する、保育者の助手的立場をとるなどの経験を通し保育者の職務理解に勤める。観察・参加実習を中心とした前期実習を2年次11月に、参加・責任実習を3年次6月に実施する。				
到達目標	子どもの発達を体験的に学び、子どもの実態に合った保育の営みについて学ぶ。 保育者の職務理解に努め、責任実習を通し指導方法、指導技術などを体得する。 幼稚園の役割や機能について理解する。				
授業計画	前期実習	後期実習			
	実習園の概要を知る	幼稚園の特徴、機能や役割を学ぶ			
	実習園の日課を理解する	配属クラスの特徴をつかみ子どもとのかかわる			
	配属クラスの子どもの名前を覚える	個々の子どもの特性を把握し、一人ひとりに合ったかかわりをする			
	子どもの遊びに参加する	保育者の保育の進め方や指導方法を学ぶ			
	保育の進め方を観察する	保育の多様な活動の部分を担当する			
	環境構成のあり方を学ぶ	教材研究をする			
	絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び等保育の営みの一部分を担当する	部分実習、責任実習などの指導案を作成し実践する			
	子どもの興味・関心、思考傾向など子どもの実態を知る	登園時、降園時の保育者と保護者のかかわり方を観察する			
	保育者の職務について学ぶ	幼稚園と多機関との連携、子育て支援などについて学ぶ			
	前期実習を振り返り自己評価をする	実習全般の振り返りを行う			
	自己課題を明確にし後期実習にむけた準備をする	保育者としての自己課題を明確にする			
授業に対する予習・復習	予習： 絵本や紙芝居等の教材研究をする 指導案を作成する 子どもに提供できる遊びを身に付ける ピアノの練習をする	復習： 実習概要報告書をまとめる 実習を振り返り自己課題を明確にする 学んだ保育技術を明確にする ピアノの練習をする			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実習園の評価（50%） 実習日誌評価（50%）				
教科書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）				
参考文献	『幼稚園教育要領』（文部科学省）				
注意事項					

科目名	幼児教育実習研究	単位数	1	担当教員	近喰晴子・永井めぐみ
授業の内容	この授業は、教育実習が不安なく効果的に行われるよう、実習に向けて事前に準備をするための教科である。実習に必要な書類を整えることから指導案の作成、自己課題の発見と学ぶ範囲も非常に広い。また、実習園からの情報も、基本的には授業内で伝える。映像教材を使用し、幼稚園や保育者、子どもの実態を具体的に理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に関する基本的な事を理解する。 ・子どもの発達の様子や遊びの実態を理解する。 ・保育活動、保育内容を理解する。 ・教材研究、指導案を作成する。 				
授業計画	第1回	実習申し込み書、実習配当表を記入する。	第16回	実習報告（グループ、全体）	
	第2回	幼稚園の一日の様子を映像から通し学ぶ。	第17回	実習自己評価と自己課題	
	第3回	幼稚園教育要領解説	第18回	自己課題の取り組み方法	
	第4回	提出書類の作成…学生調査書下書き	第19回	園評価と個別面談	
	第5回	提出書類の作成…学生調査書清書	第20回	後期実習に向けて	
	第6回	実習内容（換気用整備、子どもの遊びなど）	第21回	実習時期と教材研究	
	第7回	自己紹介の方法と商会グッズの作成	第22回	部分実習指導案の作成	
	第8回	実習時期の保育や子どもの様子	第23回	主活動の指導案作成	
	第9回	実習課題を考える	第24回	一日保育実習指導案の作成	
	第10回	オリエンテーションの受け方	第25回	オリエンテーション報告書と実習巡回教員への挨拶	
	第11回	実習日誌の書き方 保育の記録	第26回	後期実習の心得	
	第12回	実習日誌の書き方 一日の振り返りと自己評価	第27回	実習反省会	
	第13回	記録文としての表現方法	第28回	実習報告会準備	
	第14回	実習中の諸注意	第29回	実習報告会資料作成	
	第15回	オリエンテーション報告、実習報告書	第30回	実習報告会	
授業に対する予習・復習	予習： <ul style="list-style-type: none"> ・絵本や手遊びなどを準備する。 ・実習資料を収集する。 		復習： <ul style="list-style-type: none"> ・授業時に出したレポートをまとめる。 ・授業中に完成できなかった課題のまとめ 		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（20%）、課題（40%）、発表（20%）、実技（20%）				
教科書	『幼稚園教育実習』（浅見均・田中正浩、大学図書出版）				
参考文献	幼稚園教育要領、保育雑誌など				
注意事項					

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	土屋・伊藤・越川・高原
授業の内容	<p>将来の教員像を描けるように、教職の意義を実践的な演習体験を通して学び直し、自己の課題を自覚し、教職生活が円滑にスタートできるようにする。以下の4つの具体的なテーマを中心に履修する。</p> <p>① 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 ② 社会性や対人関係能力に関する事項 ③ 幼児理解や学級経営に関する事項 ④ 教科・保育内容に関する事項</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職生活についての具体的なイメージを持つ。 ・他の学生とのディスカッションを通して、視野を広げて子どもとのかかわりを捉えられるようになる。 ・教職の意義を理解するとともに、自己の課題を自覚する。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	子ども一人ひとりに応じる保育とは① ～ビデオによる保育場面を記録し、子ども一人一人の思いを考える。			
	第3回	子ども一人ひとりに応じる保育とは② ～園での子どもの姿を保育者にどう伝えるか・連絡帳での記録			
	第4回	保育者の視点で考える① ～子どものトラブル対処法を保育者の視点で考える			
	第5回	保育者の視点で考える② ～子ども世界の多元性			
	第6回	今日的教職課題への理解を深める①子どもの権利に関する条約			
	第7回	今日的教職課題への理解を深める②事例作成			
	第8回	今日的教職課題への理解を深める③ポスター発表に向けて製作			
	第9回	今日的教職課題への理解を深める④（ポスター発表）			
	第10回	保護者同士の人間関係にアプローチする			
	第11回	保育者の悩みと対応について考える			
	第12回	現職幼稚園教諭による講話（クラス運営や職業生活の実際）			
	第13回	保育実践に向けて①児童文化、素話とは			
	第14回	保育実践に向けて②児童文化、素話に取り組む			
	第15回	授業全体のまとめと振り返り			
授業に対する予習・復習	予習： 次回の授業に関して、課題が示された場合にしっかりと取り組むこと。		復習： 配布資料を読み直し、ディスカッション等で話し合った内容をノートに整理する。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>課題（40%）、発表（60%）</p>				
教科書	特になし				
参考文献	授業において紹介する。				
注意事項	他の受講生の意見や考えを聞き、自分の考えと相対化することで、学びを深めてほしい。				

科目名	保育相談支援	単位数	1	担当教員	加賀谷 崇文
授業の内容	<p>保育現場において、保護者や子ども達の相談を受けることは現代の保育者にとって必須となる。従って、保育者を志す者は相談をどのように受ければよいのかを知っておく必要がある。</p> <p>この授業では、これまで学んできた心理カウンセリングの知識などを確認するとともに、実際の保育相談支援の現場を知ることで、実践的な保育相談を学んでいく。</p>				
到達目標	<p>保護者対応について学ぶ。</p> <p>保護者の悩みについて理解する。</p> <p>就職してすぐに行う保護者支援についての具体的なイメージを作ることができる。</p>				
授業計画	第1回	保育相談支援の意義			
	第2回	保育相談支援の原則			
	第3回	ケースワークの原則とカウンセリング			
	第4回	保護者の支援			
	第5回	保育相談の基本的な方法			
	第6回	保育相談で扱われる事例（教科書の事例を学ぶ）			
	第7回	保育相談で扱われる事例（心理的問題）			
	第8回	保育相談で扱われる事例（発達の問題）			
	第9回	保育相談で扱われる事例（保護者の問題）			
	第10回	保育所以外の場所での保育相談			
	第11回	他機関との連携			
	第12回	保育者の専門性と保育所の特性を考える			
	第13回	実際の事例を検討する1（出席番号前半の学生が発表）			
	第14回	実際の事例を検討する2（出席番号後半の学生が発表）			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 保育所保育指針を読んでおく。		復習： 授業内容の振り返り。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>レポート（90%）、授業態度（10%）</p>				
教科書	『事例で学ぶ保育のための相談援助・支援 その方法と実際』（須永進編著、同文書院）				
参考文献					
注意事項	<p>保育相談では、悩んでいる人の発言に耳を傾けその心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。その姿勢を身につけるためにも授業をしっかりと聴き取るという構えを求める。</p>				

科目名	臨床心理学	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
授業の内容	現代社会では、不登校やいじめ・摂食障害など、こころの問題が原因と思われる現象が様々な場面で見られている。臨床心理学とは、このような問題を、どのように理解し、どのように援助していくかを考える学問である。このような視点を紹介した上で、我々が生活の中で、臨床心理学的な考えをどう活かしていくか考えていきたい。また、臨床心理学では幼少時の母子関係や発達課題などが数多く論じられている。それらを紹介し、幼少時の子どもとのつき合い方を考えていきたい。				
到達目標	臨床心理学という学問分野を理解することができる。 保育と臨床心理学の接点を考えることができる。 人の心の動きを知ることで、他者と関わることができるようになる。。				
授業計画	第1回	臨床心理学の定義	第16回	心理カウンセリングの定義	
	第2回	臨床心理学の実践	第17回	クライアント中心療法	
	第3回	臨床心理学の歴史（古代～メソメル）	第18回	クライアント中心療法の実践	
	第4回	臨床心理学の歴史（精神分析：フロイトの生涯）	第19回	心理アセスメントの定義	
	第5回	臨床心理学の歴史（精神分析：その他の研究者）	第20回	心理アセスメントの方法	
	第6回	ユングの童話分析	第21回	言語によるアセスメント	
	第7回	臨床心理学の歴史（心理学の技法）	第22回	非言語によるアセスメント	
	第8回	乳児期の母子関係（フロイト）	第23回	心理テスト	
	第9回	乳児期の母子関係（メラニー・クライン）	第24回	アセスメントと4つの水準	
	第10回	乳児期の母子関係（ウイニコット）	第25回	精神分析の技法（自由連想法・抵抗分析）	
	第11回	幼児期前半の母子関係	第26回	精神分析の技法（転移・防衛機制）	
	第12回	幼児期後半の母子関係	第27回	催眠療法	
	第13回	児童期以降の発達	第28回	認知行動療法	
	第14回	前期の復習	第29回	リラクゼーションとイメージ療法	
	第15回	まとめ	第30回	まとめ	
授業に対する予習・復習	予習： 1年次の心理学関連科目の内容を思い出しておくこと。		復習： 授業内容を振り返ること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（90%）、授業態度（10%）				
教科書					
参考文献					
注意事項	単に知識として学ぶのではなく、自分自身の心理や体験をふまえながら、臨床心理学を学べるように進めていきたい。				

科目名	地域子育て支援論		単位数	2	担当教員	加賀谷・土屋・越川
授業の内容	現代社会において、子育て支援は子育てをする家庭にとって非常に大きな力となっている。一方で、これらの取り組みが始まってからある程度の時間がたち、より地域に根差した新たな支援も考慮しなければならない。本講義では、地域における保育活動や子育て支援活動について諸説を学ぶとともに、実際の支援活動を行うことで「地域子育て支援」のあり方について学んでいくこととする。					
到達目標	1.子育て支援の具体的方法について理解する。 2.二歳・三歳児と保護者への関わり方を学ぶ。 3.子育て支援の効果を理解する。					
授業計画	第1回	オリエンテーション	第16回	親子活動準備③		
	第2回	支援活動内容についての説明	第17回	チラシの配布		
	第3回	親子活動内容についての検討①	第18回	活動役割分担		
	第4回	親子活動内容についての検討②	第19回	直前準備		
	第5回	親子活動内容についての検討③	第20回	親子活動①		
	第6回	親子活動内容についての検討④	第21回	親子活動②		
	第7回	親子活動内容についての検討⑤	第22回	親子活動③		
	第8回	親子活動内容についての検討⑥	第23回	親子活動④		
	第9回	親子活動内容についての検討⑦	第24回	親子活動⑤		
	第10回	親子活動の広報に関する検討	第25回	活動振り返り① (1回につき4・5名ずつ)		
	第11回	ポスターの製作	第26回	活動振り返り② (")		
	第12回	チラシの製作	第27回	活動振り返り③ (")		
	第13回	HPの製作	第28回	活動振り返り④ (")		
	第14回	親子活動準備①	第29回	次年度に向けた意見交換		
	第15回	親子活動準備②	第30回	まとめ		
授業に対する予習・復習	予習： 活動に関して各自で準備すること。			復習： 活動内容を振り返ること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施 () する / (○) しない 授業態度 (100%)					
教科書						
参考文献						
注意事項	20名までの受講とする。 第3回～9回については、学生が主体となって活動の内容を決定する。					

科目名	カウ ン セ リ ン グ 論	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
授 業 の 内 容	<p>心の悩みを解決する方法の一つとしてカウンセリングが挙げられる。カウンセリングの場面で重要なことは、悩んでいるクライアントの話しを如何に聴き、如何に理解するかである。そこで本授業では、精神分析やロジャーズなどのカウンセリング理論を取りあげ、実習を交えながら、クライアントの悩みの聞き方を考えていく。</p> <p style="text-align: right;"><u>この授業でピアヘルパーの資格受験対策も行う。</u></p>				
到達目標	<p>カウンセリングの方法を知る。 ピアヘルピングについて理解する。 カウンセリング的援助が実践できる。</p>				
授 業 計 画	第1回	カウンセリングの定義			
	第2回	カウンセリングの初期の流れ			
	第3回	実際のカウンセリング			
	第4回	構成的グループ・エンカウンター			
	第5回	ピアヘルピングの方法（信頼関係の構築）			
	第6回	ピアヘルピングの方法（問題の把握）			
	第7回	ピアヘルピングの方法（援助法の選択）			
	第8回	ピアヘルピングの方法（青年期の問題）			
	第9回	ピアヘルピングの方法（応用編）			
	第10回	ピアヘルピングの方法（ロールプレイ）			
	第11回	カウンセリングで起こりやすい問題点			
	第12回	様々な症例に対するカウンセリング			
	第13回	カウンセリングと保育			
	第14回	カウンセリングと子育て支援			
	第15回	まとめ			
授 業 に 対 す る 予 習 ・ 復 習	予習： 教科書を熟読する。		復習： 教科書を読み直す。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（ ○ ）しない レポート（100%）</p>				
教科書	<p>『ピアヘルパー・ハンドブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社） 『ピアヘルパー・ワークブック』（日本教育カウンセラー協会編、図書文化社）</p>				
参考文献					
注意事項	<p>カウンセリングの理論の中から、人の悩みや話の聴き方を学んでいく。</p>				

科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	単位数	2	担当教員	秋山 展子
授業の内容	児童館は、子どもに健全な遊びを与えてその健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする児童福祉法による児童厚生施設である。そして、放課後児童クラブは、同法に基づき小学生のうち、保護者が昼間家庭にいないものに、適切な遊び及び生活の場を与え、健全な育成を図る事業である。授業では、児童館・放課後児童クラブの歴史、目的、役割、利用状況、現状・課題を学んでいく。また実習で活用できる遊び等も紹介する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童館・放課後児童クラブの機能や地域における役割を理解する。 児童館・放課後児童クラブにおける子育て支援や児童の健全育成を理解する。 児童館が小学生及び中・高生の居場所づくりなど、地域の核となる児童福祉施設として重要な役割を担っていることを理解する。 				
授業計画	第1回	児童厚生員とその資格の説明			
	第2回	児童館の説明			
	第3回	現代の子どもたちの遊び環境			
	第4回	「健全育成」とは			
	第5回	児童館の起源、種別及び機能			
	第6回	小型児童館・児童センター・大型児童館の設置及び運営			
	第7回	児童館ガイドライン			
	第8回	児童館の課題と展望			
	第9回	放課後児童健全育成事業の概要と実態			
	第10回	放課後児童クラブの説明			
	第11回	放課後児童クラブの現状と課題			
	第12回	児童館の活動内容と事例			
	第13回	放課後児童クラブの活動内容と事例			
	第14回	地域で支える健全育成			
	第15回	これまでのまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 配布した資料、教科書を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（50％）、課題（20％）、授業態度（30％）</p> <p>※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。</p>				
教科書	『健全育成論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）				
参考文献					
注意事項	提出物の期限は厳守すること。				

科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	単位数	2	担当教員	井垣 利朗
授業の内容	児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動概要、行事の企画立案法、利用者への対応、地域とのかかわり等、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を学んでいく。また、実践的な指導スキルが身につくように、授業の中でDVD映像と実習に活用できる遊びを紹介する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童館・放課後児童クラブの機能と役割、活動の概要を理解し、提示することができる。 地域の子育て支援のエキスパートとして、児童のソーシャルワークスキル、子育て支援、ボランティアの育成等の実施方法を身につける。 現場における実践可能なプログラムの企画立案ができる。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション（児童館・放課後児童クラブの一日、年間の流れ）			
	第2回	児童館の概要（児童館の歴史と設置目的、法的根拠、児童館ガイドライン等）			
	第3回	子どもの発達と遊びの支援の実際			
	第4回	子どもの遊びを通じた健全育成			
	第5回	子どもの居場所づくりと保護者への子育ての拠点事業			
	第6回	ボランティアの育成と地域連携			
	第7回	放課後児童クラブの概要（法的根拠、活動内容、育成支援の内容、放課後児童クラブ運営指針等）			
	第8回	子育て支援を行う乳幼児活動（地域子育ての支援プログラム、支援法）			
	第9回	体験・自己実現を目指す小学生活動（仲間づくり、支援法）			
	第10回	地域社会と結びつける中高生活動（地域連携、子どもの意見を取り入れた活動）			
	第11回	子どものニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（個人ワーク、グループ演習）			
	第12回	グループ企画発表会と講評			
	第13回	必要なスキルと子どもの接し方（ケースワーク、グループワーク）			
	第14回	児童館・放課後児童クラブの運営（倫理、安全管理、防犯防災対策等）			
	第15回	まとめ（児童館・放課後児童クラブに求められる社会的課題）			
授業に対する予習・復習	予習： 「放課後児童クラブの調査(第7回提出)」 「イベントの企画立案(第11回提出)」 「イベントのグループ企画書(第12回提出)」 「児童館の必要性(第15回提出)」 の課題を予習する。	復習：	配布資料を再読し、授業内容を復習する。また、「児童館の調査(第5回提出)」 の課題を復習する。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 課題（30%）、発表（20%）、授業態度（50%）				
教科書	毎回、資料を配布する。				
参考文献	『児童館論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）、『健全育成論』（一般財団法人 児童健全育成推進財団） 『児童館の機能と運営』（一般財団法人 児童健全育成推進財団）				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 配布するすべての資料を毎回の授業に持参すること。 課題は、期限を厳守すること。 授業内の実技、演習については、積極的な態度を授業態度として評価する。 欠席回数が、全授業の3分の1を超えた場合は評価の対象外となる。 				

科目名	福祉施設の現状	単位数	2	担当教員	小室 泰治
授業の内容	福祉施設の利用者は、社会的養護を必要とする子どもたちや障害をもった子どもたち（成人施設を含む）である。その利用者はどのような生活をし、将来自立した生活を行うため職員はどのような支援を行っているのか、事例を通して自立支援のあり方を理解する。				
到達目標	1 福祉施設の入退所に係る児童相談所や福祉事務所などの措置や支援について説明ができる。 2 各福祉施設の支援内容について説明ができる。 3 福祉施設職員として支援のあり方について理解する。				
授業計画	第1回	社会的養護が必要な子どもの現状 福祉施設は各種ある。それぞれの施設はどのような役割を担っているかを学ぶ			
	第2回	福祉施設の入所から退所までの手続き 児童相談所、福祉事務所との措置関係について理解する			
	第3回	社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活① 乳児院での保育士の役割や愛着関係の形成について理解する			
	第4回	社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活② 児童養護施設での保育士の役割や被虐待児への支援、自立に向けた支援のあり方について理解する			
	第5回	社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活③ 情緒障害児施設での保育士の役割や家族への支援のあり方について学ぶ			
	第6回	社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活④ 児童自立支援施設の現状と課題を学び、虐待と非行の関係について理解する			
	第7回	社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活⑤ 母子生活支援施設の生活や子どもたちへの支援について理解する			
	第8回	社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活⑥-1 障害者生活支援施設の現状と利用者の社会参加について理解する			
	第9回	社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活⑥-2 福祉的就労と地域社会について理解する			
	第10回	社会的養護が必要な子どもたちの施設と生活⑦ 重症心身障害児施設の現状と課題について学ぶ			
	第11回	里親制度 被虐待児の増加と里親養育の意義について理解する			
	第12回	福祉施設の新しい動き 施設生活から地域生活重視へ グループホーム・ファミリーホーム			
	第13回	福祉施設の倫理 児童養護施設や障害児者施設での体罰事例を通して職員の倫理を考える			
	第14回	認可外保育施設の現状と課題 民間事業者参入に伴う認可外保育施設の増加と課題について考える			
	第15回	福祉施設のリスクマネジメント まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 施設の種別ごとにレポートをし発表してもらうので、日ごろからニュースや新聞報道に目を通して関心を持つておくこと。		復習：		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（60％）、レポート（20％）、課題（20％）				
教科書	使用しない 適宜プリントを配布				
参考文献	『子どもたちの生活を支える社会的養護内容』（小野澤昇・田中利則・大塚良一編著、ミネルヴァ書房、2013年）				
注意事項					

科目名	地 域 福 祉	単位数	2	担当教員	秋山 展子
授業の内容	本講義では地域福祉の発展過程を踏まえながら、将来の展望を示し、社会福祉に必要な知識を学ぶことを目的としている。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の基本的な考え方とシステムを理解する。 ・行政組織と民間組織の役割を理解する。 ・現代における地域福祉の課題を理解する。 				
授業計画	第1回	新しい社会福祉システム			
	第2回	地域福祉の基本的な考え方			
	第3回	地域福祉の主体と福祉教育			
	第4回	行政組織と民間組織の役割と実際			
	第5回	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割			
	第6回	住民の参加と方法			
	第7回	ソーシャルサポートネットワーク			
	第8回	地域における社会資源活用・調整・開発			
	第9回	地域における福祉ニーズの把握方法			
	第10回	地域トータルケアシステムの構築と実際			
	第11回	民生委員とは			
	第12回	地域における福祉サービスの実際			
	第13回	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方			
	第14回	福祉によるまちづくりとソーシャルアクション			
	第15回	これまでのまとめ			
授業に対する予習・復習	予習：		復習： 配布した資料を再読し、毎回の復習を各自で行い、理解を深めること。		
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 筆記試験（60%）、課題（10%）、授業態度（30%） ※講義の中で必要に応じて小テストをおこなう。				
教科書	授業でプリント配布				
参考文献					
注意事項	提出物の期限は厳守すること。				

科目名	保育施設経営論	単位数	2	担当教員	伊能 恵子
授業の内容	<p>保育所を経営するという事は、保育実践による“価値”を生み出し続けることである。そのためには、経営の条件を知り、「何のために」「何を大事にして」「どうあるべきか」を考え尽くすことが経営者の義務であり、為すべきことである。本講義において、この経営の本質を「経営品質」の視点から考察し、現場において活用できるように細分化する。また、保育所施設経営の重要性に対する実感を本講義のねらいとしたい。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生一人一人が経営者として立つ倫理観を習得できる。 ・保育所施設経営の観点から、実践を磨いていく具体的な方法を学生一人一人が習得できる。 				
授業計画	第1回	保育所経営の条件			
	第2回	価値を生み出す保育所経営活動			
	第3回	保育所におけるリーダーシップ			
	第4回	保育所における社会的責任			
	第5回	保育業界市場の理解と対応			
	第6回	保育所戦略の策定と展開			
	第7回	保育士の能力向上			
	第8回	保育所の能力向上			
	第9回	保育現場という職場環境			
	第10回	保育価値創造のプロセス			
	第11回	情報マネジメント			
	第12回	保育所経営活動結果分析			
	第13回	人事・労務管理			
	第14回	施設・整備管理			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習：	毎回の授業時に、講義内容を踏まえた予習課題を明示する。	復習：	毎回の授業後に、講義内容の理解を図るための復習課題を課し、添削指導を行い必ず理解につなげ発展できるよう指導する。	
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（50%）、課題（50%）</p>				
教科書	授業中において指示する				
参考文献	<p>『社会福祉施設・事業者の為の経営ハンドブック』（東京都社会福祉協議会） 『日本経営品質賞アセスメント基準書』（日本経営品質委員会）、日本経営品質学会機関紙</p>				
注意事項					

科目名	児童文化（感受性開発を含む）	単位数	2	担当教員	高原 典子
授業の内容	<p>児童文化活動とは、子どもの生命と周囲の事物や生命が相互に生き生きとかかわる活動である。</p> <p>本教科では子どもの文化、および絵本・児童文学・紙芝居・人形劇（パネルシアター、エプロンシアター）・玩具・折り紙・手あそびなど児童文化財の内容や歴史を学ぶ。また、それらが世代や状況にかかわらず、一生を通じて人の生活や精神にゆとりを与え、楽しさと潤いを与え、社会的にも大いに貢献するものであることを実感できるようにする。</p>				
到達目標	<p>1 子どもの文化と児童文化財について楽しみながら学び、専門的な知識と保育実技をバランス良く身につける。</p> <p>2 日本に根づく年中行事や伝承文化を理解し、それらを保育実践でわかりやすく伝えられるようにする。</p> <p>3 子どもたちに提供する想像力豊かな即興のお話を創作するなど、自分ならではの感性と表現力を磨く。</p>				
授業計画	第1回	<子ども観の変遷と児童文化> 教科書『児童文化』P9～15 P42～43	第16回	前期の復習と絵本の読み語り演習 (教科書を必ず持参すること)	
	第2回	<児童文化財としての絵本について①>絵本の歴史、特色、種類について。教科書 P67～71	第17回	パネルシアター絵人形の点検と演じ方学習 (制作した絵人形を必ず持参すること)	
	第3回	<児童文化財としての絵本について②>絵本の読み語りについて学び、ペアになって読み合う演習。	第18回	<春の子どもの生活と年中行事>教科書 P47～53 春に因む風物の折り紙も制作する。	
	第4回	<絵本の読み語り演習(グループワーク)> 小集団の前で絵本を読み合う演習を行なう。	第19回	<夏の子どもの生活と年中行事>教科書 P54～57 夏に因む風物の折り紙も制作する。	
	第5回	<児童文化財としての玩具について>玩具の歴史、子どもの発達と玩具、玩具の選び方。教科書 P89～95	第20回	<秋の子どもの生活と年中行事>教科書 P58～62 秋に因む風物の折り紙も制作する。	
	第6回	<手づくり玩具について>手づくり玩具の意義と制作。教科書 P95～112	第21回	<冬の子どもの生活と年中行事>教科書 P63～66 冬に因む風物の折り紙も制作する。	
	第7回	<児童文化財としてのアニメについて>「となりのトトロ」を視聴する。教科書 P176～181	第22回	四季の子どもの生活と年中行事の復習	
	第8回	<となりのトトロに観る子どもの文化>「となりのトトロ」の背景と子どもの遊びについて学ぶ。	第23回	<児童文化財としての紙芝居①>DVDも使い、紙芝居の歴史と演じ方を学ぶ。教科書 P143～147	
	第9回	<児童文化財としての折り紙について>折り紙の歴史を学び、制作する。P171～174	第24回	<児童文化財としての紙芝居②>グループワーク 小集団の前で紙芝居を演じる演習を行う。	
	第10回	絵本の読み語り演習	第25回	<児童文化財としての児童文学①> グリムの昔話について	
	第11回	<人形劇パネルシアターの理論と演じ方> 実演とビデオ、教科書 P163	第26回	<児童文化財としての児童文学②> アンデルセン童話について。教科書 P114～117	
	第12回	パネルシアターの絵人形制作① 下絵を写す	第27回	<児童文化財としての児童文学③> アンデルセン童話について。DVD視聴	
	第13回	パネルシアターの絵人形制作② 色塗り	第28回	<人形劇エプロンシアターの理論と演じ方>実演とビデオ。教科書 P159～163	
	第14回	パネルシアターの絵人形制作③ 色塗りと質疑応答	第29回	パネルシアター演習	
	第15回	「児童文化の意義について」考察し、レポート執筆	第30回	児童文化の総括と子どもに語るお話の創作	
授業に対する予習・復習	予習：教科書の次週学習箇所をあらかじめ読んでおいてください。		復習：ワークシートや教科書で復習し、特に手あそびは、各自覚えるまで練習しておいてください。		
成績評価の方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない</p> <p>筆記試験（25%）、レポート（25%）、実技（25%）、授業態度（25%）</p>				
教科書	<p>『児童文化』（三上利秋編著、保育出版社）</p> <p>『みんなで手遊びワン・ツー・トン』（妹尾美智子・市川恭子著、ドレミ出版）</p>				
参考文献	<p>『児童文化』（皆川美恵子ほか著、保育出版社）</p> <p>『演習 児童文化』（小川清実編、萌文書林）</p> <p>『昔話の深層ユング心理学とグリム童話』（河合隼雄著、講談社プラスアルファ文庫）</p>				
注意事項	<p>本教科では定期試験は行いませんが、単元終了時に小レポート・小テストを行います。また前期は絵本の読み語りの個人発表、後期にはパネルシアターの個人発表を行います。発表当番時に無断欠席をしないこと。また授業に必要な教材は忘れないようにしてください。教員に活発に質問し、主体的に学ぶ力を身につけると同時に、たゆまず努力して自分自身の資質向上をめざしてください。</p>				

科目名	インターンシップ	単位数	2	担当教員	橋本 洋子・星野 治
授業の内容	この授業では、地域保育学科が提供する学外実習の一つである「インターンシップ実習」のための準備を行い、長期休業期間等を利用して実際の就業活動を体験する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事業体での実務経験を通して、自身のうちにしっかりした職業意識を育てることができる。 ・事業体での実務経験を通して、自分が目指す就職とはどういうものかを認識できる。 ・事業体での実務経験を通して、本学の代表学生としての自覚および責任感を持つことができる。 				
授業計画	第1回	ガイダンス① 地域保育学科におけるインターンシップ実習の意義、今後の予定、その他。			
	第2回	ガイダンス② インターンシップ実習事後報告会（前回実習参加者による体験発表）の聴講、その他。			
	第3回	事業体研究 インターンシップ実習の受け入れを表明した事業体（変動あり）の職種や業務内容等について、理解を深める。			
	第4回	実習申し込み 第一志望の職種だけにこだわらず、いろいろな職種での体験就業に挑戦することを推奨する。			
	第5回	選考試験 地域保育学科専任教員による学内面接を行う。この面接によって、実習参加の可否等が判定される。			
	第6回	実習先事業体の決定 必ずしも第一志望どおりとは限らない。他学科（文化表現学科）のインターンシップ実習実施分と併せて告知される。			
	第7回	事前指導① 学外向け書類（誓約書、身上書）の作成および提出を行う。			
	第8回	事前指導② 実習全体を通した諸注意事項、必要な事務手続きの説明、社会人としての基本マナーの学習などを行う。			
	第9回	体験学習（現場実習） ・現場実習は、主に長期休業期間（夏季、春季）を利用して実施する。			
	第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習日数は、原則として10営業日である（事業体によっては、実習日数が増減する場合がある）。 ・実習期間中、地域保育学科専任教員による巡回指導がある。 			
	第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間が他の実習や行事と重複する場合は、事前に日程調整を行う。 原則として、資格・免許の取得に必要な実習のほうが最優先される。 			
	第12回	<ul style="list-style-type: none"> ただし、インターンシップ実習は『地域活動Ⅰ』『地域活動Ⅱ』の学外実習よりも優先される。 ・事業体によっては、独自の必要な審査や研修等を、実習開始前に行う場合がある。 			
	第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中の活動内容は、本学所定の実習日誌に記述する。 実習日誌は実習終了後、事業体からの評価を経て、本学へ返戻される。 			
	第14回	事後指導① 実習日誌の記載内容（事業体からの評価を含む）に基づいて、担当教員と個別面談を行う。			
	第15回	事後指導② インターンシップ実習事後報告会の実施（日時・場所は別途通知する）。			
授業に対する予習・復習	予習： 過去のインターンシップ実習参加者が記した実習日誌（本学キャリアセンターにて保管）に随時、目を通しておくこと。 その他、予習（事前準備）が必要な事項については、担当教員が指示する。	復習： 復習が必要な事項については、担当教員が指示する。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない 実技（70%）、授業態度（30%）				
教科書	必要に応じて随時指定する。				
参考文献	必要に応じて随時紹介する。				
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、本学地域保育学科へ入学した学生であって、次の⑦または⑧のいずれかに該当する者が履修できる（他学科生または科目等履修生であって履修を希望する者は、履修登録前に担当教員へ相談のこと）。 ⑦ 今年度本学入学生。 ⑧ 前年度以前に『インターンシップⅠ』の単位を取得しなかった者。 ・『インターンシップⅠ』（前年度開講）の春季学外実習を終了して単位取得見込みであり、さらなるインターンシップ実習への参加を希望する者は、この授業ではなく『インターンシップⅡ』を履修すること。 ・履修登録者の多少ほかの理由により、授業日時や授業教室を変更する場合がある。 ・『インターンシップⅡ』との合同授業になる場合がある。 ・学内授業でも学外実習中でも、“無断～”のたぐいの行動（無断欠席、無断遅刻、無断私語、無断内職、無断早退、その他）は、すべて厳禁である。 ・「選考試験」「事前指導②」「事後指導②」を欠席した場合（理由不問）、履修辞退と見なされて、単位を取得できない場合がある。 				

科目名	レクリエーション論	単位数	2	担当教員	新戸 信之
授業の内容	過去の経験により形成された「レクリエーション」の概念を検証するとともに、レクリエーション運動の歴史を紐解きながら、様々な領域・場面におけるレクリエーション活動の意義や効果・必要性について、企画方法・実技とも連動させ、体系的に学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーションの本質を理解する。 レクリエーション支援の企画から事後評価に係る、一連のプロセスについて理解する。 				
授業計画	第1回	オリエンテーション、「自由」と「レクリエーション」			
	第2回	レクリエーションとは何か、レクリエーション略史			
	第3回	レクリエーション支援の構造			
	第4回	領域別レクリエーション			
	第5回	ライフスタイルとレクリエーション			
	第6回	健康スポーツとレクリエーション			
	第7回	セラピューティックレクリエーション、APIE プロセス			
	第8回	レクリエーションの価値とニーズ、財の分類			
	第9回	レクリエーション事業とは			
	第10回	レクリエーション事業計画			
	第11回	レクリエーション行動のメカニズム			
	第12回	コミュニケーションスキルとホスピタリティ			
	第13回	レクリエーションワーカーの資質、安全管理			
	第14回	支援プログラム案の作成方法			
	第15回	まとめ			
授業に対する予習・復習	予習： 各回のテーマから、内容を予想、イメージする。	復習： 授業の内容と、自己の経験を照らし合わせてみる。			
成績評価の方法	試験期間における定期試験： 実施（○）する／（ ）しない 筆記試験（80%）、授業態度（20%）				
教科書	『レクリエーション支援の基礎—楽しさ・心地よさを活かす理論と技術』（日本レクリエーション協会）				
参考文献	『レクリエーション活動援助法』（福祉士資格講座編集委員会、中央法規）				
注意事項					

科目名	レクリエーション実技		単位数	2	担当教員	新戸 信之
授業の内容	<p>前期は、様々なレクリエーション財を体験し、それぞれの持つおもしろさや効果を感じることを目的とする。 後期は、日時・場所・対象など、支援現場に即した状況でロールプレイをすることにより、現場対応力を身につけることを目的とする。 1年を通して、レクリエーションを学んだ者のスペシャリティとなり得るスキルを習得することを目的とする。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事前情報に即した支援プログラムを作成する。 ・支援現場の状況に対応でき得るスキルを習得する。 					
授業計画	第1回	オリエンテーション、 コミュニケーション・ワーク（個人→グループ）	第16回	支援プログラム評価の視点について 携帯メールによる他者評価の方法について		
	第2回	動的グループ・ゲーム	第17回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験の準備 リハーサル		
	第3回	静的グループ・ゲーム	第18回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ①グループによる発表、全員で評価		
	第4回	イニシアティブ・ゲーム	第19回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ②グループによる発表、全員で評価		
	第5回	グループ・ワーク・トレーニング	第20回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ③グループによる発表、全員で評価		
	第6回	レクリエーション・スポーツ① 「チャレンジ・ザ・ゲーム」	第21回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ④グループによる発表、全員で評価		
	第7回	レクリエーション・スポーツ② 「ドッジビー」「アルティメット」	第22回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ⑤グループによる発表、全員で評価		
	第8回	身近な物を利用して遊ぶ	第23回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ⑥グループによる発表、全員で評価		
	第9回	知的レクリエーション財	第24回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ⑦グループによる発表、全員で評価		
	第10回	スポーツ① 「バドミントン」	第25回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ⑧グループによる発表、全員で評価		
	第11回	スポーツ② 「バレーボール」	第26回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ⑨グループによる発表、全員で評価		
	第12回	創造的レクリエーション財（絵画）	第27回	ロールプレイによるレクリエーション支援体験 ⑩グループによる発表、全員で評価		
	第13回	創造的レクリエーション財（造形）	第28回	レクリエーション支援のポイント		
	第14回	レクリエーションプログラム案の作成	第29回	まとめ		
	第15回	レクリエーションプログラム案の作成	第30回	チャレンジ・ザ・ゲーム		
授業に対する 予習・復習	予習： 後期の「ロールプレイによるレクリエーション支援体験」については、ネット上に掲載された過去の他者評価を参考にし て臨む。リハーサルは必須。		復習： 後期の「ロールプレイによるレクリエーション支援体験」については、発表後、自己評価 と他者評価を基に指導案を修正し、完成させる。			
成績評価の 方法	<p>試験期間における定期試験： 実施（ ）する／（○）しない レポート（10%）、作品（10%）、発表（50%）、授業態度（30%）</p>					
教科書						
参考文献						
注意事項						